

平成 29 年度東京音楽大学大学院音楽研究科  
博士後期課程音楽専攻博士論文

モダンダンス作品《日本の太鼓》「鹿踊り」  
——舞踊と音楽の分析的研究——  
〈付録〉

舞踊・音楽対応表

校訂スコアの作成と校訂報告

校訂スコア\*

\*著作権上の理由によりリポジトリ非公開

D2014-08 音楽学  
河内 春香

# 付録

## ■ 舞踊・音楽対応表

前奏	S1
第一章「八ツの鹿の踊り」	S2
第二章「女鹿かくしの踊り」	S7
第三章「二ツの鹿の踊り」	S12
第四章「八ツの鹿の踊り」	S15

## ■ 校訂スコアの作成と校訂報告

※著作権上の理由により一部リポジトリ非公開

1. パート譜	i
2. パート譜の筆跡および使用五線紙	vi
(1) A による写譜	vi
(2) B による写譜	vii
(3) A と B による写譜	viii
(4) C による写譜	ix
(5) D による写譜	x
3. 現存資料に基づくスコアの作成と楽譜校訂	xii
4. 《日本の太鼓》「鹿踊り」校訂報告	xiii
(1) Prelude	xiii
(2) 第一章「八ツの鹿の踊り」	xiii
(3) 第二章「女鹿かくしの踊り」	xxi
(4) 第三章「二ツの鹿の踊り」	xxv
(5) 第四章「八ツの鹿の踊り」	xxvi



## ■ 校訂スコア

※著作権上の理由によりリポジトリ非公開

Prelude	A1
第一章「八ツの鹿の踊り」	A5
第二章「女鹿かくしの踊り」	A34
第三章「二ツの鹿の踊り」	A48
第四章「八ツの鹿の踊り」	A63

モダンダンス作品《日本の太鼓》「鹿踊り」  
——舞踊と音楽の分析的研究——  
〈付録〉  
舞踊・音楽対応表





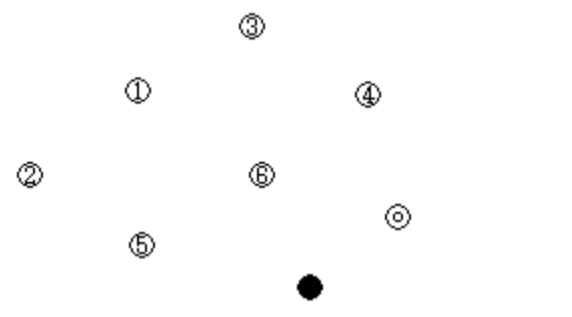
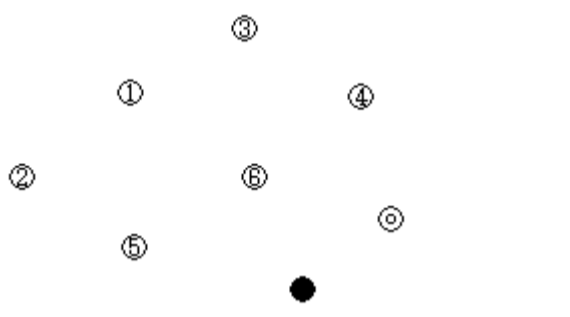
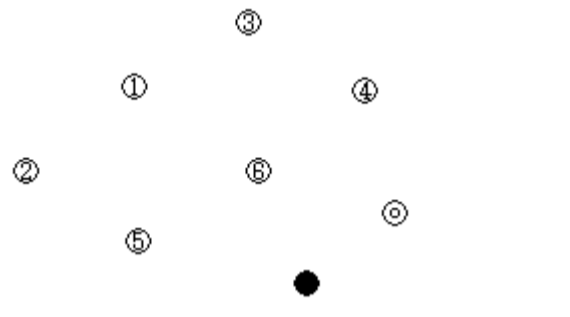
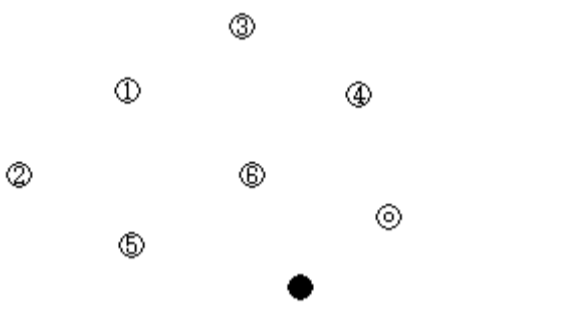
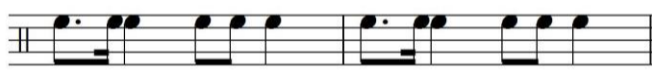
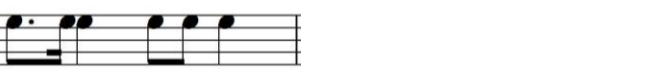

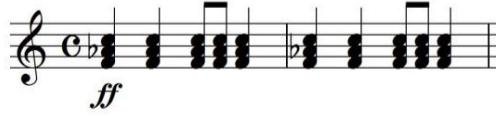
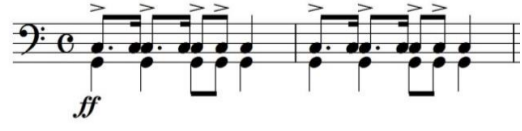


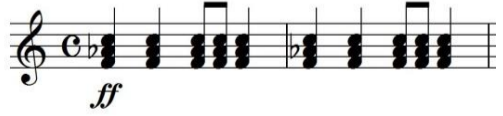
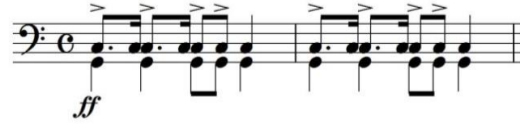


前奏—Andantino






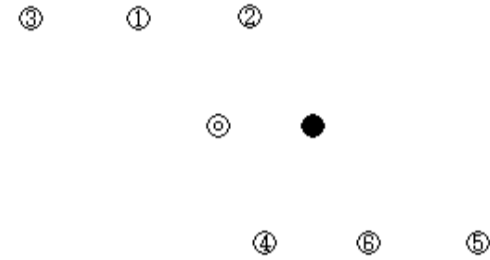
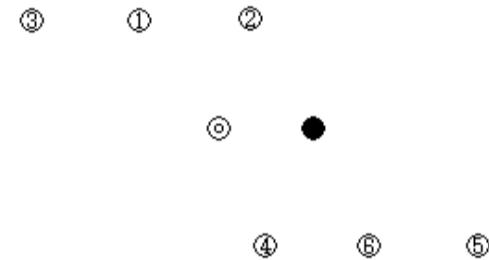
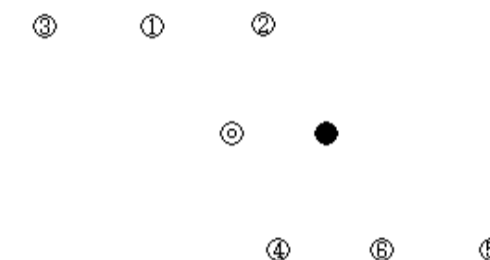
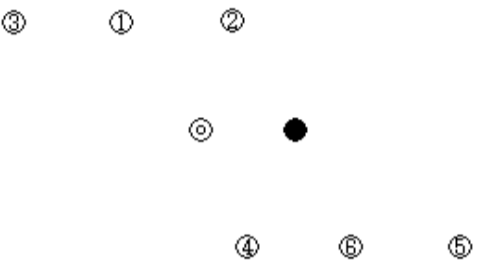
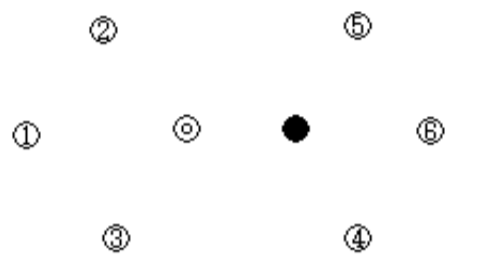




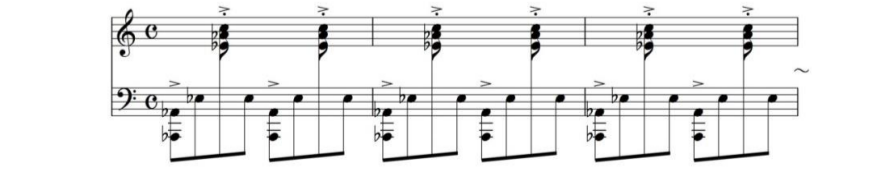

舞 踊	大区分		
	小区分		
	舞台		
	隊形		
	親鹿	※幕が下りている	
	女鹿		
	男鹿① ↳ ⑥		
	太鼓		
	大区分	1	
	小区分	0a(1-15)	0a'(16-31)
音 楽	旋律	 <p>律音階(C-D-F-G-A)で構成された旋律がAndantinoで堂々と奏される(Fl., Ob., Cl., Vn.1, Vn.2, Vla.)</p>	<p>全体に強弱が<i>ff</i>に変化し、Cor., Tpt. が加わる。Fl.以外の楽器は音高が1オクターヴ上がる。</p>
	和声	 <p>F-A-Cの和音からG-B-Dの和音に進行する(Fg., Tb., Pf., Timp., Vc., Cb.)。</p>	<p>B部分と和声進行に変化はない(Batt.(Gran Cassa)が加わる)。</p>

第一章「ハツの鹿の踊り」—Andante

大区分 小区分	I	II				
	1A	1B	1C	1C'	1D	1D'
舞台						
隊形						
親鹿	舞台中央に座った状態のまま静止している。	舞台正面を向き、静止する。	体を左右にゆっくりと傾け、動きの最後に頭を振る動きを4回くりかえした後、静止する。	体を左右に4回傾ける(頭は振らない)。その後、摺り足から体を左右に傾け、頭を振る動きを4回くりかえして静止する。	舞台下手を向き、再び正面に向き直る動きを2回くりかえした後、同じ動きを太鼓をたたきながら2回くりかえす。	右手を前にした体勢で舞台前方まで4歩進んだところで後ろを向き、舞台後方へ4歩進んだ後、正面に向き直る。その後、太鼓をたたきながら舞台下手を向いて舞台正面に向き直る動きを2回くりかえす。
女鹿	舞台中央に座った状態のまま静止している。	舞台正面を向き、静止する。	体を左右にゆっくりと傾け、動きの最後に頭を振る動きを4回くりかえした後、静止する。	体を左右に4回傾ける(頭は振らない)。その後、摺り足から体を左右に傾け、頭を振る動きを4回くりかえして静止する。	舞台上手を向き、再び正面に向き直る動きを2回くりかえした後、同じ動きを太鼓をたたきながら2回くりかえす。	右手を前にした体勢で舞台前方まで4歩進んだところで後ろを向き、舞台後方へ4歩進んだ後、正面に向き直る。その後、太鼓をたたきながら舞台上手を向いて舞台正面に向き直る動きを2回くりかえす。
男鹿 ① ⑤ ⑥	親鹿と女鹿を取り囲んだ形のまま、2人を中心に周囲を反時計回りにまわった後、親鹿と女鹿の両脇に縦一列の形に移動する。	腰を落とした体勢のまま静止している。	腰を落として静止している体勢から、親鹿と女鹿の動きが止まった後に、同じように体を左右に傾けて頭を振る動きを3回くりかえして静止する。	親鹿、女鹿が体を左右に2回傾けた後、同様に左右2回体を傾ける(頭は振らない)。その後、摺り足から体を左右に傾け、頭を振る動きを4回くりかえして静止する。	④⑤⑥は舞台下手、①②③は舞台上手を向き、再び正面に向き直る動きを2回くりかえした後、同じ動きを太鼓をたたきながら2回くりかえす。	太鼓をたたきつづけながら④⑤⑥は舞台上手、①②③は舞台上手を向き、再び正面に向き直る動きを2回くりかえす。その後、太鼓をたたきのをやめ、親鹿と女鹿に近づくように④⑤⑥と①②③がそれぞれ舞台下手と上手に1歩ずつ移動し、4歩進んだところでハの字の隊形になるように逆向きに離れていく。
太鼓						
大区分	1				2	
小区分	1a(1-9)	1b(10-15)	1a'(16-23)	1a''(24-32)	1c(33-40)	1c'(41-48)
音楽						
	G, A, As, B音のみで構成された重厚な旋律がppでくりかえされる(Cl., Vln., Vla.)。	Fl.とOb.のみによって奏される旋律が挿入される。	下降の音型を含んだ1aの変化形がCl., Vla.からFg.へ、さらにCl., Vln., Vla.へと引き継がれていく。	全体の強弱がmfに変化し、音高が1オクターヴ上がる。さらにFl., Ob., Vln.が加わる(ここではFg.は和音を奏する)。	主音をGis音とするGis-A-H-Cis-Dis音で構成された副付点を含む軽やかな旋律がfで奏される(Cl., Fl.)。	Ob., Tr.が加わる。
和声						
空虚五度の和音を中心に、F-C音の和音がくりかえされた後、F-CとEs-Bの和音が交互に奏される(Fg., Batt(Tamburo piccolo)Vc., Cb.)。		1aの和声にC-G音が加わり、F-C音からC-G音、Es-B音へと変化する(Fg., Vc., Cb.)。	Per.(Gran Gassa)を中心に随所で和音がより細かい単位(主に八分音符)で奏され、Cor.が加わる。	和音として音が重なる部分はないが、低音楽器によるFis音とCis音が旋律を支える(Fg., Cor., Tb., Timp., Vc., Cb.)。	Vln., Vlaが加わる。	

Ⅲ			Ⅳ		
1D''	1E	1X	1F	1F'	1X'
舞台下手を向いた後正面に向き直る動きを2回くりかえす。その後、舞台正面に歩み出て後ろを向き、舞台後方に進んだ後再び正面を向いて静止する。	舞台下手方向に斜め向きに進み、8拍分進んだところでもとの位置に戻った後、舞台の中心を時計回りに歩き、舞台上手側のやや後方で静止する。	舞台後方から舞台上手に向ってななめ前方向に16拍分進む。その後、次の16拍で舞台前方を上手から下手に横切り、位置につく。	舞台正面下手側に向って両手を上げて下ろす動作の後、後ろを振り返って頭を振る動作を2回くりかえす。その後、大きく右足を踏み出し、右手で大きく太鼓を1回たたく。	舞台正面上手側に向って両手を上げながら4歩前進した後、後ろを振り返る動きを2回くりかえす。その後、大きく右足を踏み出し、右手で大きく太鼓を1回たたく。	舞台上手側に移動する。
舞台上手を向いた後正面に向き直る動きを2回くりかえす。その後、舞台正面に歩み出て後ろを向き、舞台後方に進んだ後再び正面を向いて静止する。	舞台上手方向に斜め向きに進み、8拍分進んだところでもとの位置に戻った後、舞台の中心を時計回りに歩き、親鹿の左側やや前方(舞台のほぼ中央)で静止する。	舞台後方から舞台上手に向ってななめ前方向に16拍分進む。その後、次の16拍で舞台前方を上手から下手に横切り、位置につく。	舞台正面下手側に向って両手を上げて下ろす動作の後、後ろを振り返って頭を振る動作を2回くりかえす。その後、大きく右足を踏み出し、右手で大きく太鼓を1回たたく。	舞台正面上手側に向って両手を上げながら4歩前進した後、後ろを振り返る動きを2回くりかえす。その後、大きく右足を踏み出し、右手で大きく太鼓を1回たたく。	舞台上手側に移動する。
④⑤⑥は舞台下手、①②③は舞台上手を向いた後正面に向き直る動きを2回くりかえす。その後、④⑤⑥は舞台下手、①②③は舞台上手に互いに歩み寄って、親鹿と女鹿が舞台後方に進むタイミングで逆向きに離れていき、元の位置に戻って静止する。	全体にそれぞれ舞台前方に向って斜め方向に1歩ずつ進んでいき、8歩目で後ろを向いて舞台後方に引き返す。8歩目で正面を向く。	全体にそれぞれ舞台前方に向ってななめ方向に1歩ずつ進んでいき、8歩目で後ろを向いて舞台後方に引き返す。8歩目で正面を向く。その後の8拍ずつ歩みを進め、16拍目でそれぞれの位置につく。	舞台正面下手側に向って両手を上げて下ろす動作の後、後ろを振り返って頭を振る動作を2回くりかえす。その後、大きく右足を踏み出し、右手で大きく太鼓を1回たたく。	舞台正面上手側に向って両手を上げながら4歩前進した後、後ろを振り返る動きを2回くりかえす。その後、大きく右足を踏み出し、右手で大きく太鼓を1回たたく。	腰を落とした姿勢で体をゆっくりと左右に4回傾ける。
1'			2'		
1a'''(49-56)	1a'+1b(57-64)	1a'+1b'(65-72)	1c''(73-78)	1c''(73-78)※リピート	1d(79-80)
 1a'にOb.のロングトーンと、Cl.が途中で加わる。が半音階の旋律から新たにPf.加わる。	 1a部分の旋律(Cl., Vla.)に音価が2倍に変わった1bの旋律(Fl., Ob.)が加わる。	 Vln.が加わって旋律を奏する。	 1c, 1c'から主音がGisからClに変化する。副付点や付点のリズムも変化し、旋律は弦楽器を中心に奏されるようになる(Cl., Vln., Vla., Vc.)。ffで奏される新たな動機が付加される(和声部分譜例参照)。	 ※リピート記号でくりかえされる	 Ob.ソロによる跳躍音型のが奏される。
※1aおよび1a'を参照 1a'の編成にPf.が加わる。	 空虚五度を中心とした和音から短三和音と長三和音に変化し(Vln.2が第三音をロングトーンで奏する)、F-As-C音がくりかえされた後、F-As-C音とEs-G-B音の和音が交互に奏される(Fg., Vln., Vc., Cb.)。	 Vln. IIに代わって第三音をCor.が奏する。	 77-78小節の和音が重なる部分(上記譜例参照)以外はAs音とG音の単音(Fg., Cor., Tb., Cb.)によって旋律が支えられる。	 ※リピート記号でくりかえされる	 G音とD音の五度の音程によって支えられる。






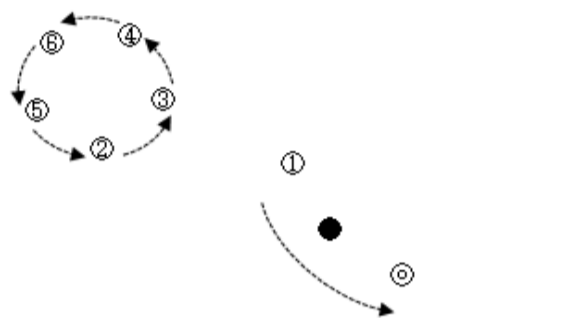

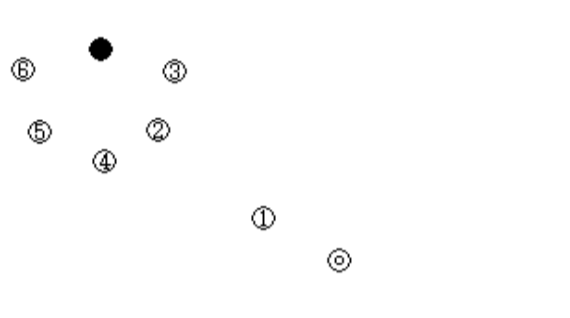

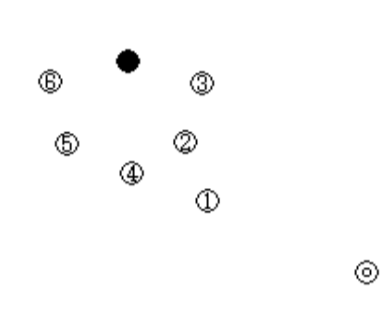
1G	1G	1C'+1G'	*1H
			
			
<p>足を踏み出して前後に動きながら太鼓たたき動きを4回くりかえした後、両手を上に上げた状態で同じ動きを4回くりかえす。</p>	<p>足を前後に踏み出して動きながら太鼓たたき動きを4回くりかえした後、両手を上に上げた状態で同じ動きを4回くりかえす。</p>	<p>足を踏み出して体を傾ける動き(右→左)の後、足を前後に踏み出して動きながら太鼓のふちをたたき動きを4回くりかえす。</p>	<p>右手と左足を上げて右足のみでターンをした後、上体を前傾に倒してササラを伏せる動きを2回くりかえす。</p>
<p>足を踏み出して前後に動きながら太鼓たたき動きを4回くりかえした後、両手を上に上げた状態で同じ動きを4回くりかえす。</p>	<p>足を前後に踏み出して動きながら太鼓たたき動きを4回くりかえした後、両手を上に上げた状態で同じ動きを4回くりかえす。</p>	<p>足を踏み出して体を傾ける動き(右→左)の後、足を前後に踏み出して動きながら太鼓のふちをたたき動きを4回くりかえす。</p>	<p>右手と左足を上げて右足のみでターンをした後、上体を前傾に倒してササラを伏せる動きを2回くりかえす。</p>
<p>足を踏み出して前後に動きながら太鼓たたき動きを4回くりかえした後、両手を上に上げた状態で同じ動きを4回くりかえす。</p>	<p>足を前後に踏み出して動きながら太鼓たたき動きを4回くりかえした後、両手を上に上げた状態で同じ動きを4回くりかえす。</p>	<p>足を踏み出して体を傾ける動き(右→左)の後、足を前後に踏み出して動きながら太鼓のふちをたたき動きを4回くりかえす。</p>	<p>右手と左足を上げて右足のみでターンをした後、上体を前傾に倒してササラを伏せる動きを2回くりかえす。</p>
			
<p>3</p>			<p>4</p>
<p>1e(81-84)</p>	<p>1e(81-84)※リピート</p>	<p>1f(85-88)</p>	<p>1f(89-92)</p>
 <p>Timp.とPer.以外の楽器がF-As-C音の短三和音を同じリズムで奏した後(Pf.はクラスター)、83-84小節でTimp.のみが踊り手の太鼓と似たリズムを奏する。</p>	<p>※リピート記号でくりかえされる</p>  <p>Timp.は上記のリズムを奏する。</p>	 <p>F-As-B-C音のみで構成された力強い旋律がfで奏される(Fl., Ob., Cl.)。</p>	 <p>Tp.とVln.が加わる。</p>
 <p>Timp.とPer.以外の楽器がF-As-C音の短三和音を同じリズムで奏した後(Pf.はクラスター)、83-84小節でTimp.のみが踊り手の太鼓と似たリズムを奏する。</p>	 <p>Timp.は上記のリズムを奏する。</p>	 <p>F-C音からEs-B音の空虚五度を中心とした和音に変化し(Fg., Cor., Vc., Cb.(Timp.はC音からG音に進行する)), Vln., Vlaは伴奏型を奏する(Vla.は構成音が同一の異なる音型を奏する)。</p>	 <p>Tb.とPer.が加わり、Vla.のみ伴奏型(上記譜例)を奏し続ける。</p>

VI				
IX''	*II	IG'	*IH'	*IJ(IX''')
				
				
隊形を変えるために舞台中央へ移動し、位置についたらその場に腰を下ろす。	腰を下ろしたまま静止している。	足を前後に踏み出して動きながら最初の8拍は太鼓、次の8拍は太鼓のふちをたたく。	変化した隊形でIH部分と同じ動きをする。	両手を上に上げ、体を左右に揺らす。
隊形を変えるために舞台中央へ移動し、位置についたらその場に腰を下ろす。	腰を下ろしたまま静止している。	足を前後に踏み出して動きながら最初の8拍は太鼓、次の8拍は太鼓のふちをたたく。	変化した隊形でIH部分と同じ動きをする。	両手を上に上げ、体を左右に揺らす。
隊形を変えるために①②③は舞台下手後方、④⑤⑥は舞台上手前方にそれぞれ一列に移動する。	①②③は舞台上手、④⑤⑥は舞台下手に向かって右手を上げながら片足を交互に上げ、ターンしながら移動する。7歩目で静止し、正面を向いて見得を切る。その後、同じ逆方向に動きながら同じ動きをした後、もとの位置に戻る。	足を前後に踏み出して動きながら最初の8拍は太鼓、次の8拍は太鼓のふちを同じリズムでたたく。	変化した隊形でIH部分と同じ動きをする。	両手を上に上げ、体を左右に揺らしながらそれぞれの位置に移動する。
4				
4			4'	
1g(93-96)	1h(97-100)	1f(101-104)	1f'(105-108)	1g'(109-112)
 主音がC音に変わり、Ob.のみによって旋律が奏される。	 2拍目まではFl., Ob.が旋律を奏し、3拍目からTp.が引き継いだ後、Ob.のみによって装飾音的な副付点が付された音階がffで奏される。	※IIを参照	※IIを参照	 主音がE音に変化した同じ旋律がCl., Vln., Vla.によって奏される
 As-C-Es音の三和音(Pf.が構成音すべてを奏する(上記譜例))。Cor., Tb., Cb.がAs, Fg., Pf., Vc.がアルペジオで伴奏型を奏する。	 As-C-Es音の三和音で構成される(Pf.が構成音すべてを奏する(上記譜例))。Fg., Cor., Vc., Cb.がB音、Tb.がB-F音をそれぞれ奏する。	※IIを参照	※IIを参照	和声なし



II'		VII		
1D''' + 1C'	1C''	1K	1K'	1Y
舞台上手へ向って女鹿と向かい合った後、舞台正面を向く動きを2回くりかえし、正面を向いた状態で体を右左に1回ずつ傾けながら太鼓をたたく。	舞台下手へ向かって摺り足で2歩進み出て体を右に傾けた後、舞台上手へ向かって摺り足で2歩歩み出て左に傾ける動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら同じ動きを2回くりかえす。	太鼓をたたきながら4歩後方に下がった後、右手を前に上げた姿勢で4歩前に進む。その後、太鼓をたたきながら右足を踏み出して後ろを向き、再び正面を向く動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながらその場を回る動きを2回くりかえす。	太鼓をたたきながらハの字を描くように体を回転させる動きを4回くりかえした後、静止して両手を高く上に上げ、ゆっくりと体の両脇に下ろす。	第二章の隊形に移動し、位置につく。
舞台下手へ向って親鹿と向かい合った後、舞台正面を向く動きを2回くりかえし、正面を向いた状態で体を右左に1回ずつ傾けながら太鼓をたたく。	舞台下手へ向かって摺り足で2歩進み出て体を右に傾けた後、舞台上手へ向かって摺り足で2歩歩み出て左に傾ける動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら同じ動きを2回くりかえす。	太鼓をたたきながら4歩後方に下がった後、右手を前に上げた姿勢で4歩前に進む。その後、太鼓をたたきながら右足を踏み出して後ろを向き、再び正面を向く動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながらその場を回る動きを2回くりかえす。	太鼓をたたきながらハの字を描くように体を回転させる動きを4回くりかえした後、静止して両手を高く上に上げ、ゆっくりと体の両脇に下ろす。	第二章の隊形に移動し、位置につく。
①②③は舞台下手側、④⑤⑥は舞台上手側へ体をななめに傾けた後、直立の体勢に戻り、全員が右左1回ずつ同じ方向に体を傾けながら太鼓をたたく。	舞台下手へ向かって摺り足で2歩進み出て体を右に傾けた後、舞台上手へ向かって摺り足で2歩歩み出て左に傾ける動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら同じ動きを2回くりかえす。	太鼓をたたきながら4歩後方に下がった後、右手を前に上げた姿勢で4歩前に進みながら次の隊形の位置に移動する。その後、太鼓をたたきながら右足を踏み出して後ろを向き、再び正面を向く動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながらその場を回る動きを2回くりかえす。	太鼓をたたきながらハの字を描くように体を回転させる動きを4回くりかえした後、静止して両手を高く上に上げ、ゆっくりと体の両脇に下ろす。	第二章の隊形に移動し、位置につく。
5		2''		
li(113-118)	li(113-118)※リピート	1c'''(119-126)	1j(127-132)	1y(133)
Edurの音階に似た構成音(E-Fis-Gis-A-H-Cis-D音(導音はDis音にならない))による上向・下降および半音階の旋律が長三度で奏される。	※リピート記号でくりかえされる	1cおよび1c'と同じ旋律が付点を伴わずに奏される(Fl., Ob., Cl., Tp., Vln.)。	五度の跳躍を中心とした、Fis mollのような音(Fis-Gis-A-H-Cis音)で構成された旋律がくりかえされる(Fl., Ob., Cl., Tp., Vln.)。	Tamburo Piccoloのスネアのみが奏される。
空虚五度を中心とした和音がE-H音からCis-Gis音に変化する(Fg., Tb., Vla., Vc., Cb.)。	※リピート記号でくりかえされる	Fis-Cis音とGis-Dis音の空虚五度を中心とした和音が交互に現れる。	Fis-Cis音の空虚五度を中心とした和音がくりかえされる(Fg., Cor., Tb., Vla., Vc., Cb.)。	

第二章「女鹿かくしの踊り」—Lento

大区分	I				
小区分	2A	2A'	2B	2A''	2C
舞台					
舞踊					
親鹿	立ち上がって左に首を傾げた後、舞台上を反時計回りに歩く。	舞台上を反時計回りに歩きつづけた後、①と向かいあって静止し、女鹿を探すように左右1回ずつ頭を傾げる。	両手を高く上げて体の前に下ろした後、左に首を傾げ、右手を①に向ける。	右手を下ろし、そのままの姿勢で静止している。	腰を落とした姿勢で静止している。
女鹿	すでに立ち上がった姿勢のまま、左に首を傾げた後、親鹿について舞台上を反時計回りに歩く。	だんだんと親鹿と①の列から離れて②③④⑤⑥に近づいていき、輪の中に入る。舞台上手後方で②③④⑤⑥に取り囲まれる形で座って静止する。	舞台上手後方で座ったまま静止している。	舞台上手後方で座ったまま静止している。	舞台上手後方で座ったまま静止している。
男鹿①	立ち上がった後、女鹿の後ろについて舞台上を反時計回りに歩く。	舞台上を親鹿について反時計回りに歩きつづけた後、親鹿と向かいあって静止し、女鹿を探すように右左1回ずつ頭を傾げる。	両手を高く上げて体の前に下ろした後、親鹿につづくように右に首を傾げる。親鹿が右手を①に向けた後、大きくうなずく。	女鹿を取り囲む②③④⑤⑥の輪に一歩ずつ近づいていく。	②③④⑤⑥の輪をのぞきこむように、オーケストラの音に併せて首を傾げる。
④⑤⑥	②③④⑤⑥は舞台上手側奥で内側を向いて円形の形をつくったまま、反時計回りに回る。	②③④⑤⑥が反時計回りに回りながら、親鹿・女鹿・①に近づいていき、女鹿を取り囲むように自分たちの輪の中に入れて、舞台上手後方につれていく。	舞台上手後方で立って女鹿を取り囲んだまま静止している。	舞台上手後方で立って女鹿を取り囲んだまま静止している。	舞台上手後方で立って女鹿を取り囲んだまま静止している。
太鼓					

大区分	1				
小区分	2a(1-5)	2a'(6-12)	2b(13-14)	2a''(15-16)	2c(17-18)
旋律	 C-Cis-D-E-F音を順次進行する旋律がFl.とOb.のみのユニゾンで奏される。	 Fl.のみによってオクターヴで2aと同じ旋律が奏され、途中からOb.が加わる。Cl.が各拍頭の音をなぞる(上記譜例)。	 E音を中心とした副付点によるppの静かな旋律が2回くりかえされる(Ob., Vln.)。	 2a部分と同じ旋律をFl.のみが奏し、Vln.とVlaが拍頭の音をトリルでなぞる(上記譜例)。	 Fl.のみによる半音階の動機にCl.とFg.が反進行の半音階で対旋律を奏する。
和声			 A-E音の五度の和音によるロングトーン(Cl., Cor., Vla., Vc.)		

2B'	2A'''	2B''	*2D	*2E
腰を落とした姿勢で静止している。①が元の位置へ戻ってきたところで大きく1回回らず。	舞台上を反時計回りに一方ずつ歩いていき、舞台上手前方で静止する。	左右1回ずつゆっくりと頭を傾げる。	太鼓をたたき、たたき終わったら右手をまっすぐ斜め上に高く上げる。	右手をまっすぐ斜め上に高く上げる→右左右に頭を振る→右足を上げてターン→1回高くジャンプの動きの後、ササラを伏せて舞台上手方向に体を傾けて静止する。
舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。
親鹿のところへ一歩ずつ歩いていき、元の位置で両手を高く上げて体の前に下ろした後静止する。	親鹿の後ろについて舞台上を反時計回りに一方ずつ歩いた後、舞台下手やや後方で静止する。	親鹿が左に頭を傾げた後、大きく1回回らずにそのまま舞台後方へ移動する。	舞台上手後方で腰を落とした姿勢のまま静止し、親鹿の太鼓が終わったタイミングで右手をまっすぐ斜め上に高く上げる。	右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま静止している。
舞台下手後方で立って女鹿を取り囲んだまま静止している。	舞台下手後方で立って女鹿を取り囲んだまま静止している。	舞台下手後方で立って女鹿を取り囲んだまま静止している。	舞台下手後方で立った姿勢のまま静止し、親鹿の太鼓が終わったタイミングで全員が親鹿の方向を向き、右手をまっすぐ斜め上に高く上げる。	④が親鹿の方へ近づいていく。②③⑤⑥は右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま静止している。

2d(19-21)	2a'''(22-26)	2b(27-28)	※パウゼ(29-32)	2c(33-36)
<p>Vln.によるH-A-G-F音の旋律とF-G-A-H音の対旋律(Vla., Vc.)が奏される。21小節目はパウゼ。</p>	<p>2a部分と同様の旋律がFl.のみによって奏され、拍頭の音をVln., Vla., Vc.が奏する。Per.(Tamburo Piccolo)が旋律と同じリズムを奏する。</p>	<p>※2b部分を参照</p>		<p>Fis-Gis-A-Cis音によって構成される跳躍する旋律とFis-Gis-A音の対旋律がffで力強く奏される(Cl., Fg., Tb., Vla., Vc.)。</p>
<p>和音としての音の重なりはないが、Cb.のF音によって支えられる。21小節目はパウゼ。</p>		<p>※2b部分を参照</p>		





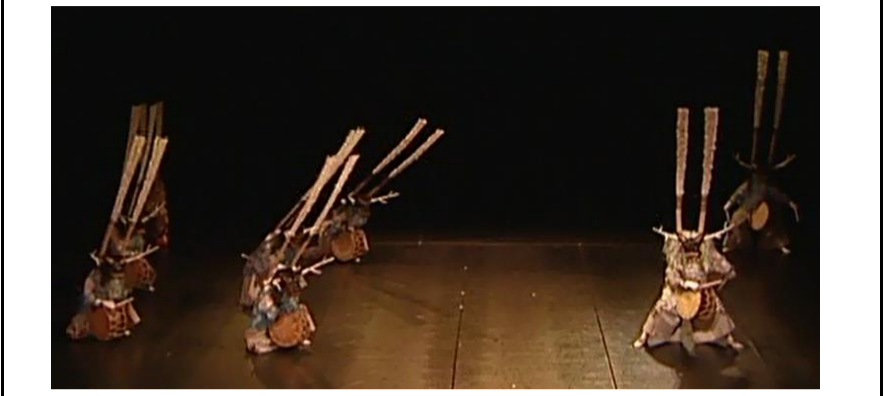
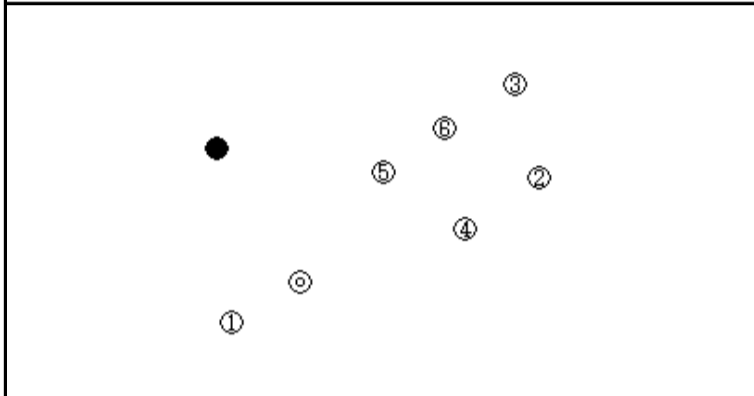
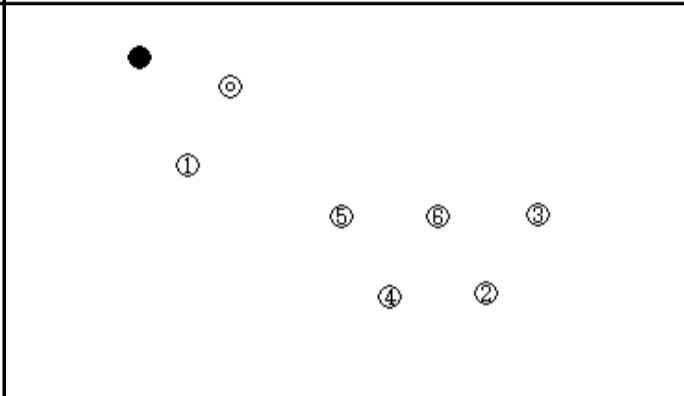
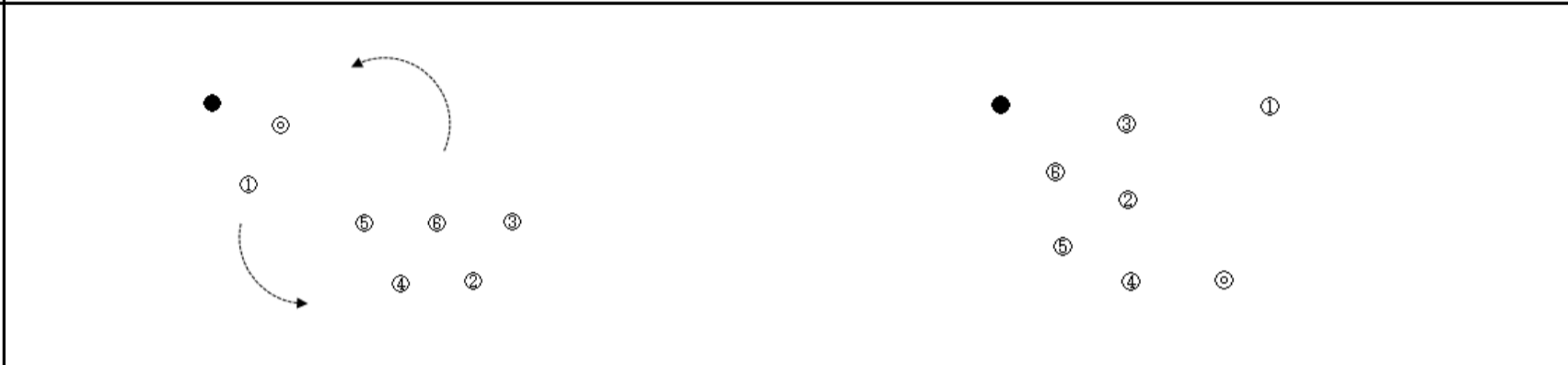
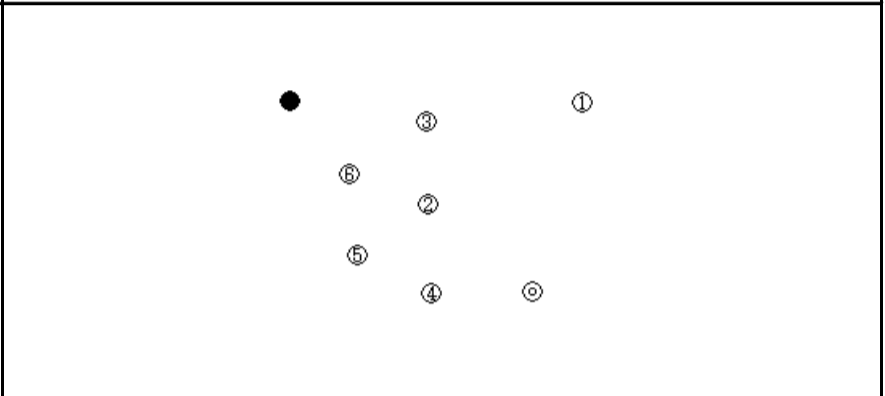

III

*2E'	*2F	2F'	**2G	2X
舞台上手方向に体を傾けて静止したままで、④の動きが終わったタイミングで④の方へ向き直る。	④と向かいあったまま左右交互に体を傾ける動きを4回くりかえした後、④と互いに入れ替わる形でターンを2回くりかえす。その後、④の方へ2歩進んだ後、④が歩み寄ってくるときは後ずさりをする。	最初に舞台下手側、次に上手側にジャンプしながらターンで移動し、跳び上がるタイミングで太鼓を1回打つ。その後太鼓をたたきながら④の方へ4拍分一歩ずつ近づいていき、次の4拍で離れる。	舞台正面に向けてササラを伏せて体を舞台上手側に傾けた後、②③④⑤⑥の方へ歩み寄って下手側に体を傾ける。その後、元の位置に一歩ずつ戻り、正面を向いてササラを打ってふたたび体を舞台上手側に傾ける。そこから②③④⑤⑥の方へ向き直り、左右に体を傾ける動きを4回くりかえす。	次の隊形の位置(舞台下手)へ移動する。
舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。
右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま静止している。	右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま静止している。	右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま親鹿と④と同じタイミングで太鼓をたたく。	舞台正面に向けてササラを伏せて体を舞台上手側に傾けた後、②③④⑤⑥の方へ歩み寄って下手側に体を傾ける。その後、元の位置に一歩ずつ戻り、正面を向いてササラを打ってふたたび体を舞台上手側に傾ける。そこから②③④⑤⑥の方へ向き直り、左右に体を傾ける動きを4回くりかえす。	次の隊形の位置(舞台下手前方)へ移動する。
④は右手をまっすぐ斜め上に高く上げる→右左右に頭を振る→右足を上げてターン→1回高くジャンプの動きの後、ササラを伏せた後(親鹿と同じ動き)、親鹿の方へ向き直る。②③⑤⑥は右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま静止している。	④は親鹿と向かいあったまま左右交互に体を傾ける動きを4回くりかえした後、親鹿と互いに入れ替わる形でターンを2回くりかえす。親鹿が歩み寄ってくるところで後ずさりをして、親鹿の方へ2歩歩み寄る。②③⑤⑥は右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま静止している。	④は最初に舞台下手側、次に上手側にジャンプしながらターンで移動し、跳び上がるタイミングで太鼓を1回打つ。その後太鼓をたたきながら舞台下手側へ4拍分ずさっていき、次の4拍で立ち上がって位置につく。②③⑤⑥は右手をまっすぐ斜め上に高く上げた姿勢のまま親鹿と④と同じタイミングで太鼓をたたく。	舞台正面に向けてササラを伏せて体を舞台下手側に傾けた後、親鹿と①の方へ歩み寄って上手側に体を傾ける。その後、元の位置に一歩ずつ戻り、正面を向いてササラを伏せてふたたび体を舞台下手側に傾ける。そこから親鹿と①の方へ向き直り、左右に体を傾ける動きを4回くりかえす。	次の隊形の位置(舞台上手後方)へ移動する。

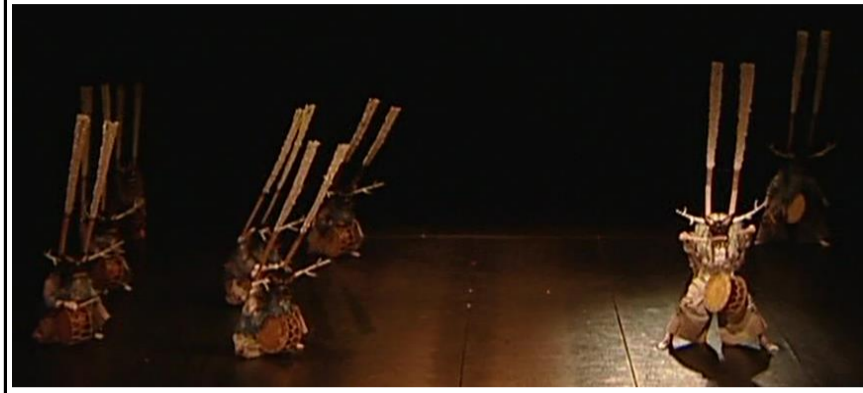

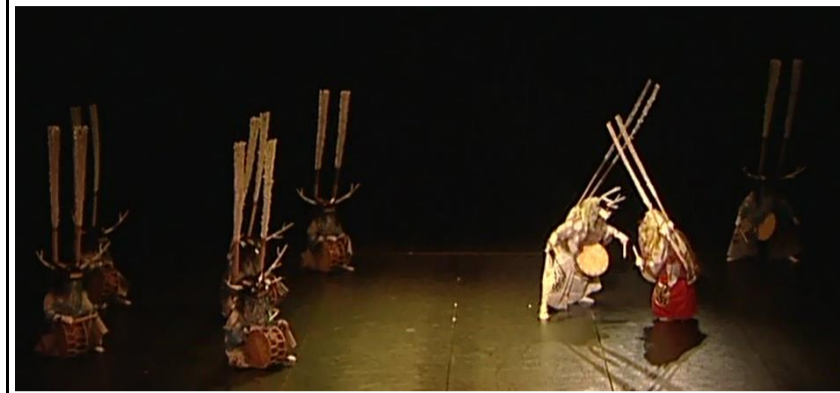


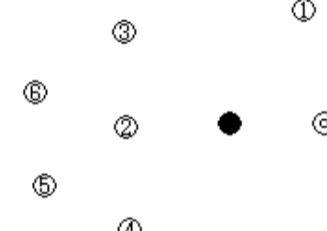
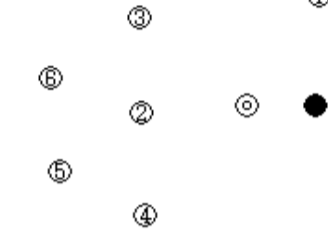
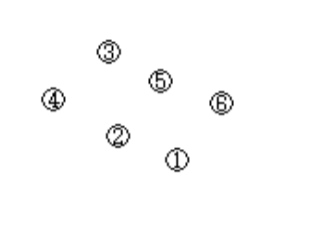

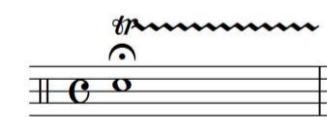
2

2e(33-36)※リピート	2f(37-42)	2f(37-42)※リピート	2g(43-50)	2h(51-52)
※2f部分を参照	D-Fis-Gis-A音で構成される旋律がffで奏される(Cl., Vln., Vla.)。	※2f部分を参照	D-E-G-A-H音の音からなるffの旋律がTp.のソロで奏される。	A-H-Cis-D音からなる3度で跳躍する旋律のみがPer.(Tamburo Piccolo)にあわせて奏される(Cl., Fg., Vln., Vla., Vc.)。
	E-H音からC-G音、D-A音の空虚五度の和音を中心に進行する(Vc., Cb.)。	途中から2度の和音と3度の和音に変化する(低弦のD-Aの響きとあわせると、H-C-G-A音とD-Fis-A音の長三和音の響きになる)。	G-H-D音の長三和音がつづく(Cl., Fg., Tb., Timp., Vln., Vla., Vc., Cb.)。	






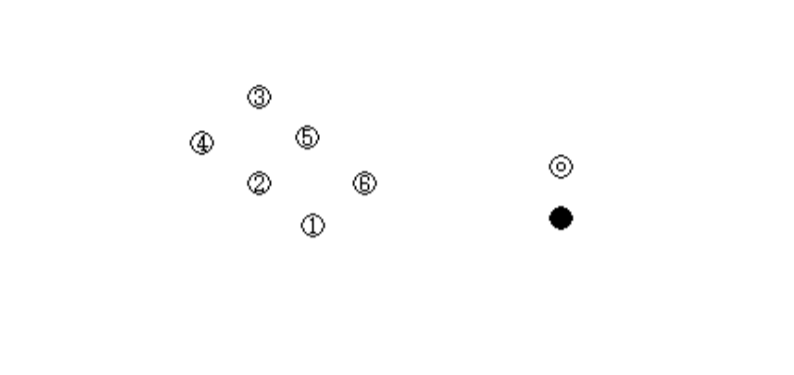
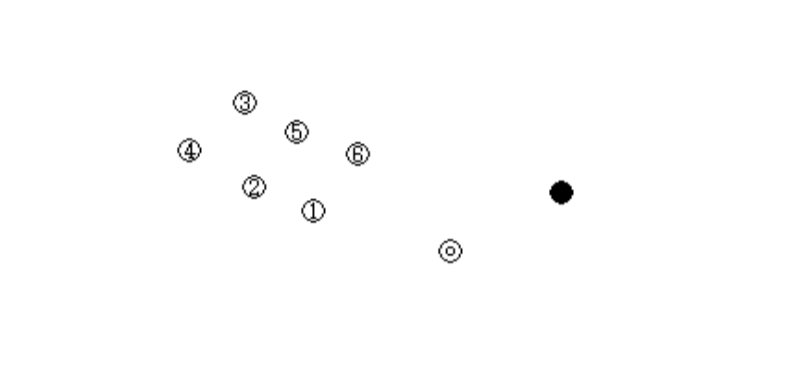
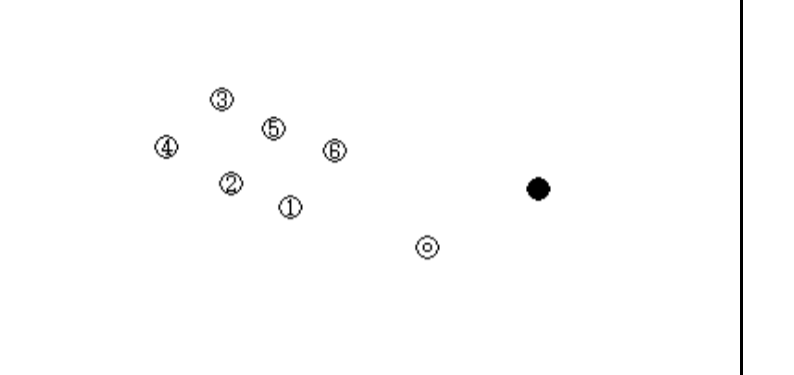
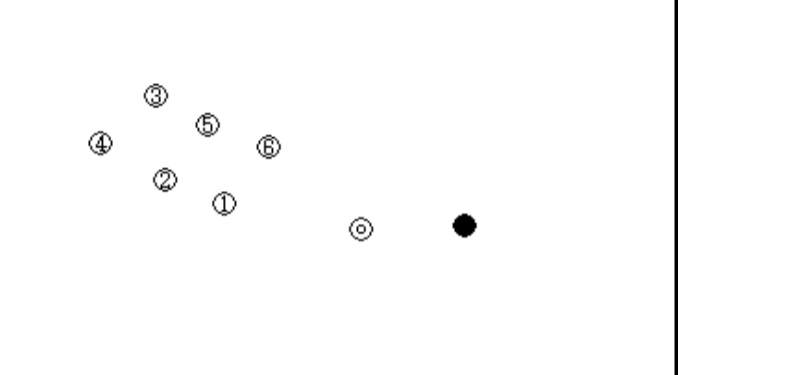
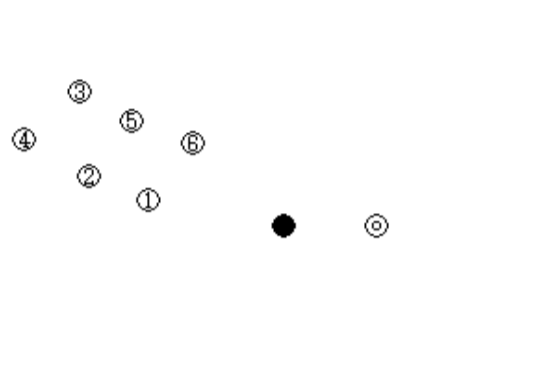




IV

2H	2X'	2I		*2J
				
				
太鼓を1回たたき、ジャンプをしながら②③④⑤⑥の方へ歩み寄った後、ジャンプをしながらターンをしつつ後ずさり、つづいて②③④⑤⑥の方へジャンプをしながら2歩み寄る。その後、太鼓をたたきながら、②③④⑤⑥の方へ2歩で歩み寄って2歩で離れる動きの後、その場で太鼓をたたきつつ体を右左にステップを踏みながら4回揺らす。	次の隊形の位置(舞台下手後方)へ移動する。	太鼓をたたきジャンプをしながら、①とともに舞台を旋回するように移動する(隊形図矢印方向)。その後、静止して舞台下手側②③④⑤⑥の方へ体を傾けた後、再び体をまっすぐ起こす。		頭を1回ゆっくりと回した後、ササラを打って正面を向き静止する。
舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。	舞台下手後方で座ったまま静止している。		舞台下手後方で座ったまま静止している。
太鼓を1回たたき、ジャンプをしながら②③④⑤⑥の方へ歩み寄った後、ジャンプをしながらターンをしつつ後ずさり、つづいて②③④⑤⑥の方へジャンプをしながら2歩み寄る。その後、太鼓をたたきながら、②③④⑤⑥の方へ2歩で歩み寄って2歩で離れる動きの後、その場で太鼓をたたきつつ体を右左にステップを踏みながら4回揺らす。	次の隊形の位置(舞台下手中央)へ移動する。	太鼓をたたきジャンプをしながら、親鹿とともに舞台を旋回するように移動する(隊形図矢印方向)。その後、舞台上手側後方へ移動する。		立ち上がったまま両手を高く上に上げ、ゆっくりと下ろす。
太鼓を1回たたき、親鹿と①の方へ歩み寄った後、同じ方向へさらに一歩踏みだし、親鹿と①が歩み寄ってくる1回目はジャンプをしながら後ずさり、2回目はジャンプをしながらターンをしつつさらに後ずさる。その後、太鼓をたたきながら、親鹿と①の方へ2歩で歩み寄って2歩で離れる動きの後、その場で太鼓をたたきつつ体を右左にステップを踏みながら4回揺らす。	次の隊形の位置(舞台上手前方)へ移動する。	太鼓をたたきジャンプをしながら、全員で舞台を旋回するように移動する(隊形図矢印方向)。その後、静止して舞台上手側の親鹿の方へ体を傾けた後、あとずさりながら舞台下手側へやや体を傾ける。		頭を1回大きくゆっくりと回してその場にうつむいて腰を下ろす。
3				

2g(43-50)	2h(51-52)	2f(53-56)	2i(57-58)
※2g部分を参照	※2h部分を参照	 <p>H-B-A音の半音階の旋律(Cl., Tp., Vln.)からTp.のみA-As-H-B音を受け継ぐ。</p>	
※2g部分を参照	※2h部分を参照	 <p>G-D音の空虚五度を中心とした和音(Fg., Tp., Tb., Timp., Vla., Vc.)とPer.(Gran Cassa, Tanburo Piccolo)が旋律のリズムにあわせて奏される。</p>	 <p>Pf.とBatt.以外の楽器で2度の音程を含む和音を<i>ff</i>で奏する。</p>





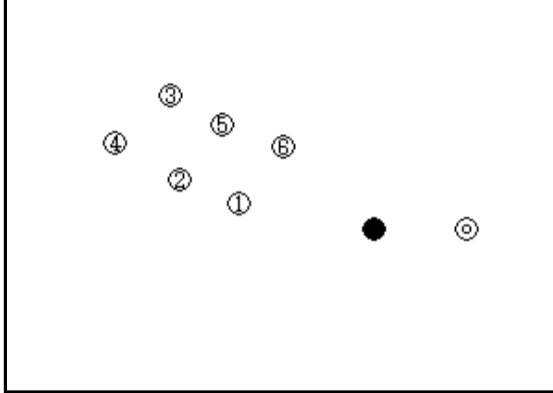
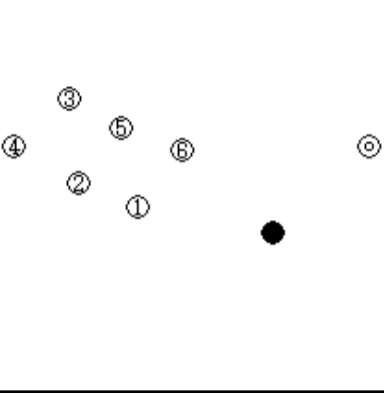
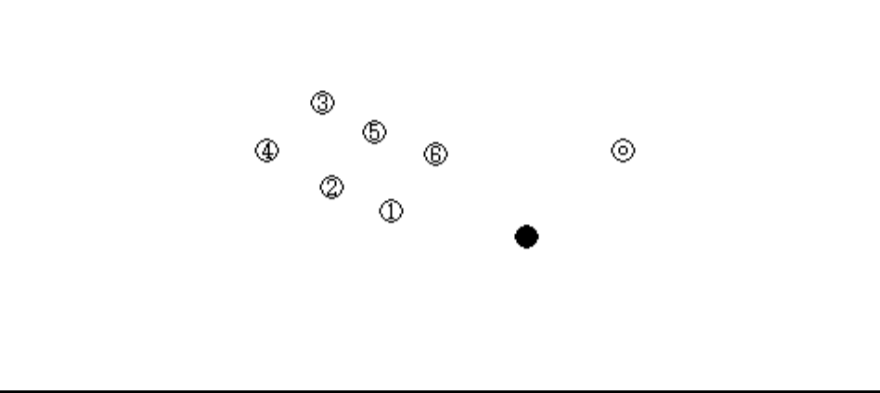
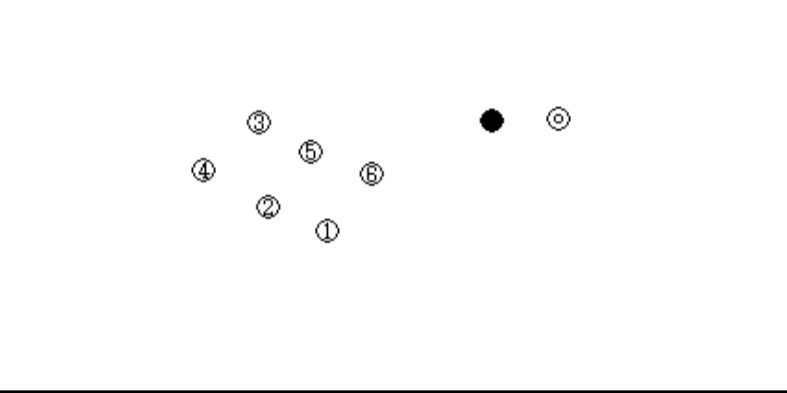


		I'		
2K	2L	2A'''	2Y	
				
				
両手を前に上げてゆっくりと下ろした後、右手と左手を順に上に上げてゆっくりと下ろす。	1回目の旋律で頭を左に傾げる→2回目の旋律で右に頭を傾げた後、女鹿を見つけて女鹿の方へ体向ける→3回目の旋律で女鹿と向かいあい、腰を落とす→4回目の旋律でゆっくりと右左に体を傾げる。	ゆっくりと反時計回りに歩き、静止したところでゆっくりと右左に体を傾げる。最後のロングトーンで舞台後方へ移動する。	第三章の隊形に移動し、位置につく。	
舞台下手後方で座ったまま静止している。	1回目の旋律で立ち上がる→2回目の旋律で親鹿の方へ歩み寄っていく→3回目の旋律で親鹿と向かいあい、腰を落とす→4回目の旋律でゆっくりと左右に体を傾げる。	親鹿についてゆっくりと反時計回りに歩き、静止したところでゆっくりと左右に体を傾げる。最後のロングトーンで後ろを向く。	第三章の隊形に移動し、位置につく。	
舞台上手後方で立ったまま静止している。	舞台上手後方で立ったまま静止している。	舞台上手後方で立ったまま静止している。	第三章の隊形に移動し、位置につく。	
その場に座った姿勢で静止している。	その場に座った姿勢で静止している。4回目の旋律で顔を上げる。	座った姿勢のままで静止している。	第三章の隊形に移動し、位置につく。	
		I'		
2e'(59-63)	2b'(64-67)	2a'''(68-73)	2y(74)	
 Fis mollのような音階(Fis-Gis-A-H-Cis音)で構成された旋律(Ob., Cl., Vln.)と低音楽器(Fg., Vla., Vc., Cb.)による対旋律が奏される。	2b部分の旋律をCor.のソロが主音を変えて2回ずつ奏する(1回目はE音、2回目はH音)。	旋律はFl、拍頭の音はClが奏する。	 Tamburo Piccoloのスネアのみが奏される。	
対旋律の行先でCis- Fis- Gis音の和音が奏される(上記譜例参照)。				

第三章「ニツの鹿の踊り」—Allegro

大区分	I			I'	
	小区分	3A	3B	3A'	3B'
舞台					
舞踊					
親鹿	位置について静止している。	Cl.の旋律がはじまると同時に、舞台奥から女鹿の方を見ながら右手と左足を上げてジャンプする動きをし、4回で女鹿の前へ出てくる。その後、両手を上げた姿勢で女鹿の方を向き、右左に体を揺らしながら8回ステップを踏む。つづいて舞台中央に進みながら同じ動きをくりかえす。	右手と右足を上げてその場で大きく1回ターンした後、静止して左に体を傾け、手足を下ろした状態でその場で1回ターンする。	女鹿とともに右手と左足を上げてジャンプする動きをくりかえしながら舞台下手方向に進み、4回で女鹿と向かいあって右左に体を揺らしながら4回ステップを踏む。その後、両手を上に上げた状態で右左に体を揺らしてステップを踏みながらターンをして4回で女鹿と場所を入れ替わる。	その場に静止して体をゆっくりと右左に大きく傾けた後、舞台上手後方に移動する。
女鹿	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。	3Bが終わる直前でその場に立ち上がる。	親鹿とともに右手と左足を上げてジャンプする動きをくりかえしながら舞台下手方向に進み、4回で親鹿と向かいあって右左に体を揺らしながら4回ステップを踏む。その後、両手を上に上げた状態で右左に体を揺らしてステップを踏みながらターンをして4回で親鹿と場所を入れ替わる。	その場に静止して体をゆっくりと右左に大きく傾けた後、舞台中央やや後方に移動する。
男鹿①⑥	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。
太鼓					
大区分	1				
小区分	*3a(1-3)	3b(4-11)	3c(12-14)	3b'(15-18)	3c(19-21)
旋律	※旋律なし	 Timp.が3小節つづいた後、半音を含むG durのような音階(G-A-H-C-D-E音)によるCl.ソロが奏される。	 E音を中心とした長いフレーズの旋律が奏される。	3b部分の旋律が4小節分のみ奏される。	※3c部分を参照
和声	 Timp.がソロでG-D音の五度の音程とリズムを奏する。		 A-E音、F-C音の五度の音程をFg.が奏する。	※3b部分(3小節目以降)を参照	※3c部分を参照





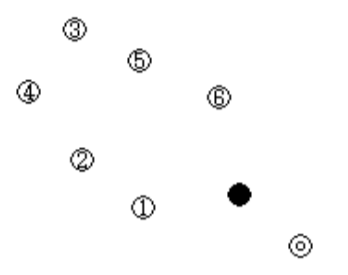
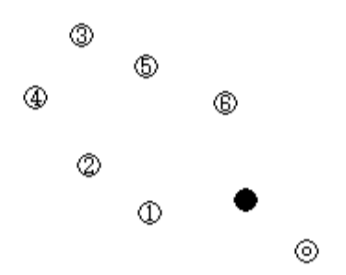
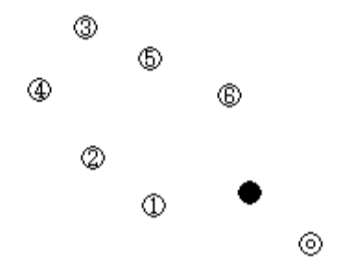
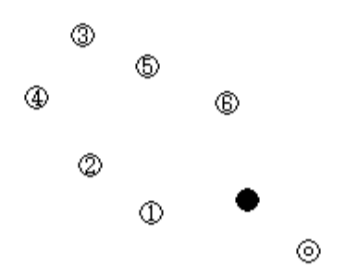





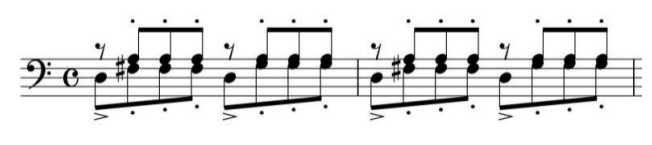


II		I'		
*3C	*3D	3A''	3B''	3A'''
舞台上手方向で左足と左手を前に出した体勢で女鹿の方へ斜めに向いて静止している。	舞台上手方向で左足と左手を前に出した体勢で女鹿の方へ斜めに向いて静止している。	右手と左足を上げてジャンプをしながら舞台下手へ一歩ずつ移動し、両手を上に上げてステップを踏みながら体を右左に揺らす動きを4回くりかえす。	その後、静止した状態で体を右左に大きく傾けた後、腰を落とした姿勢で体は正面、上体は女鹿の方を向く。	女鹿とともに右手と左足を上げてジャンプする動きをくりかえしながら舞台下手方向に進み、右左に体を揺らしてステップを踏みながらターンをして4回で女鹿と場所を入れ替わる。
太鼓をたたき動作をしながら(実際にはたたかない)一歩ずつ前進し、4歩進んだところで右手を前に出して半円を描くように動き、つづいて左手を前に出して逆方向に半円を描くように動く。その後、太鼓をたたき動作をしながら一歩ずつ後ろに下がり、4歩目で静止する。そして、両手を前にゆくりと上げながら右へ移動→両手を前にゆくりと上げながら左へ移動した後、右左へステップを踏みながらバチをクロスさせた状態で打ち鳴らす動きを4回くりかえす。	左足と右手を前に出す→右足と左手を前に出す動作を4回くりかえし、右手を上に上げながら舞台上手側に1回ターンする。その後、逆向きに1回ターンして舞台中央に戻り、両手をうえに上げて右左に体を揺らす動きを4回くりかえした後、両手を右側に向けた状態で舞台下手方向へ5回小さくジャンプする。	左手と右足を上げてジャンプをしながら舞台上手へ一歩ずつ移動し、両手を上に上げてステップを踏みながら体を右左に揺らす動きを4回くりかえす。	その後、静止した状態で体を右左に大きく傾けた後、立ったままの姿勢で体は正面、上体は親鹿の方を向く。	親鹿とともに右手と左足を上げてジャンプする動きをくりかえしながら舞台下手方向に進み、右左に体を揺らしてステップを踏みながらターンをして4回で女鹿と場所を入れ替わる。
その場に座って静止しながら太鼓をたたく。	その場に座って静止しながら太鼓をたたく。	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。	その場に座って静止している。
2		1		
3d(22-31)	3e(32-39)	3b'(40-43)	3c(44-46)	3b'(47-50)
		※3b'部分を参照(強弱のみ <i>f</i> に変化)	※3c部分を参照(強弱のみ <i>mf</i> に変化)	※3b'部分を参照
G-Gis-A-B-H-D音の半音階を中心とした音階の旋律が <i>mf</i> で奏される(Ob., Vln.(Vln.は <i>p</i> ))。	A-H-C-Des-D音の音階による旋律が <i>pp</i> で奏される(Fl., Ob., Vln.)。			
	※3d部分と同じ	※3b'部分を参照	※3c部分を参照	※3b'部分を参照
E-H音の五度の和音(Fg., Vla., Vc., Cb.(Eのみ))とH-Cisの2度(Cor.)の和音のロングトーンをそれぞれタイで奏する。				







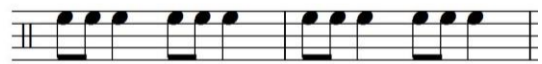



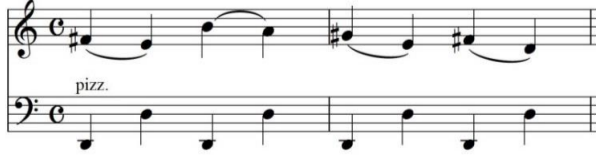


		II		
3B'''	*3C	*3D'	3Y	
				
				
その後、静止した状態でゆっくりと体を右左に大きく傾けた後、舞台上手側後方に移動する。	舞台上手方向で左足と左手を前に出した体勢で女鹿の方へ斜めに向いて静止している。	舞台上手方向で左足と左手を前に出した体勢で女鹿の方へ斜めに向いて静止している状態から、その場で女鹿とともに両手を上に上げて右左に体を揺らす動きを4回くりかえした後、小さく3回ジャンプ→大きく1回ジャンプして舞台上に屈んで着地した姿勢で静止する。	第四章の隊形に移動し、位置につく。	
その後、静止した状態でゆっくりと体を右左に大きく傾けた後、舞台中央やや後方に移動する。	太鼓をたたく動作をしながら(実際にはたたかない)一歩ずつ前進し、4歩進んだところで右手を前に出して半円を描くように動き、つづいて左手を前に出して逆方向に半円を描くように動く。その後、太鼓をたたく動作をしながら一歩ずつ後ろに下がり、4歩目で静止する。そして、両手を前にゆっくりと上げながら右へ移動→両手を前にゆっくりと上げながら左へ移動した後、右左へステップを踏みながらバチをクロスさせた状態で打ち鳴らす動きを4回くりかえす。	左足と右手を前に出す→右足と左手を前に出す動作を4回くりかえし、右手を上を上げながら舞台上手側に1回ターンする。その後、逆向きに1回ターンして舞台中央に戻り、両手を上に上げて右左に体を揺らす動きを4回くりかえした後、両手を右側に向けた状態で舞台下手方向へ5回小さくジャンプする。	第四章の隊形に移動し、位置につく。	
その場に座って静止している。	その場に座って静止しながら太鼓をたたく。	その場に座って静止しながら太鼓をたたく。	第四章の隊形に移動し、位置につく。	
				
	2			
3c(51-53)	3d(54-63)	3e(64-71)	3y(72-75)	
※3c部分を参照	※3dを参照	※3e部分を参照	 Tamburo Piccoloが上記譜例のリズムを奏しながらだんだんとdeminuendoしていく。	
※3c部分を参照	※3dを参照	※3e部分を参照		

第四章「ハツの鹿の踊り」—Allegro

大区分		I			
小区分		*4A	4B	4X	4B'
舞台					
隊形					
親鹿		その場に座って①②③④⑤⑥がササラを伏せるタイミングで太鼓を1回ずつたたく。	舞台上手側に体を向け、前後に8回ステップを踏んだ後(動き①)、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。その後、動き①の後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、ターンする(動き③)。そして前後に4回ステップを踏みながら4回目で頭を左側に振る動きを2回くりかえした後(動き②)、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。つづいて、体を舞台下手側へ向けて動き②をした後、動き③をする。	太鼓をたたきながら舞台下手側に一歩ずつ進み、最後の1音で静止した後、①②③④⑤⑥の間を6人と並行になるように舞台下手側に斜め前に進み、再び太鼓をたたきながら舞台上手側に一歩ずつ進み、最後の1音で静止する。	両手を上に高く上げて体を右左に揺らしながら8回ステップを踏んだ後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。その後、前後に4回ステップを踏みながら4回目で頭を左側に振る動きを2回くりかえした後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、ターンしてから次の隊形に移動してその場に座る。
女鹿		その場に座って静止している。4B部分に入る直前で立ち上がり、①②③④⑤⑥と並行になる位置へ斜め前に進む。	舞台上手側に体を向け、前後に8回ステップを踏んだ後(動き①)、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。その後、動き①の後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、ターンする(動き③)。そして前後に4回ステップを踏みながら4回目で頭を左側に振る動きを2回くりかえした後(動き②)、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。つづいて、体を舞台下手側へ向けて動き②をした後、動き③をする。	太鼓をたたきながら舞台下手側に一歩ずつ進み、最後の1音で静止した後、①②③④⑤⑥の間を6人と並行になるように舞台下手側に斜め前に進み、再び太鼓をたたきながら舞台上手側に一歩ずつ進み、最後の1音で静止する。	両手を上に高く上げて体を右左に揺らしながら8回ステップを踏んだ後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。その後、前後に4回ステップを踏みながら4回目で頭を左側に振る動きを2回くりかえした後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、ターンしてから次の隊形に移動してその場に座る。
男鹿		①⑥②⑤④③の順に立ち上がってササラを伏せ、次の隊形の位置に移動する。先に位置についている踊り手はササラを伏せるタイミングでその場で太鼓を1回たたく。	舞台上手側に体を向け、前後に8回ステップを踏んだ後(動き①)、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。その後、動き①の後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、ターンする(動き③)。そして前後に4回ステップを踏みながら4回目で頭を左側に振る動きを2回くりかえした後(動き②)、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。つづいて、体を舞台下手側へ向けて動き②をした後、動き③をする。	太鼓をたたきながら舞台上手側に一歩ずつ進み、最後の1音で静止する動きを2回くりかえす。	両手を上に高く上げて体を右左に揺らしながら8回ステップを踏んだ後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、体の右側を左右左の順に動かして、最後に太鼓を1回打つ。その後、前後に4回ステップを踏みながら4回目で頭を左側に振る動きを2回くりかえした後、右手を弧を描くように上に上げながら右足を大きく踏み出し、ターンをしながら①②④と⑥⑤③が平行にずれる形で次の隊形に移動する。
太鼓					
大区分	1				
小区分	4a(1-12)	4b(13-28)	4c(29-32)	4b'(33-44)	
旋律		 E-G-A-H音で構成された旋律がfで奏される(Cl., Cor., Vln., Vla.)	 Eを主音としてC-D-Eによる旋律が2回奏される(Ob., Cl., Vln., Vla.)	4b部分にFl., Ob.が加わり(Cl.の1オクターヴ上)、Vln. Iは1オクターヴ音高が上がる。	
和声	 A-E音の空虚五度を中心とした和音の中で(Fg., Tb., Timp., Vc., Cb.), 2小節ごとの拍頭でA-C-E音の短三和音が奏される(Fl., Ob., Cl., Cor., Tp., Vln., Vla.(Pf.はクラスター))。	 A-E音、E-H音の空虚五度の和音(Fg., Pf., Timp., Vc., Cb.)とA-C-E音、E-G-H音の短三和音(Pf.のみ)が旋律にあわせて交互に継続して奏される。	 A-E音の空虚五度の和音(FG., Tb., Pf., Timp., Cv. Cb.)とA-C-E音の短三和音(Pf.のみ)が八分音符と四分音符のリズムで奏される。	※4b部分を参照	

II			
4X'	4C	4C'	*4D
			
			
①②③④⑤⑥の間を抜けるように舞台上手側に斜めに直進した後、①②③④⑤⑥と向かいあう。	右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたくような動作をしてジャンプする動きを8回くりかえす。	右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたくような動作をしてジャンプする動きを2回くりかえした後、両手を上に高く上げて右左に体を揺らしながら4回ステップを踏む。	右手を上げて後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み、右手を上げながら2回ジャンプをした後、静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏む→2回ジャンプをし、右手をあげながら静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえす。
①②③④⑤⑥の間を抜けるように舞台上手側に斜めに直進した後、①②③④⑤⑥と向かいあう。	右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたくような動作をしてジャンプする動きを8回くりかえす。	右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたくような動作をしてジャンプする動きを2回くりかえした後、両手を上に高く上げて右左に体を揺らしながら4回ステップを踏む。	右手を上げて後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み、右手を上げながら2回ジャンプをした後、静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏む→2回ジャンプをし、右手をあげながら静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえす。
全員で後ろを向いて直進した後、前に向き直ってその場に座る。	その場で立ち上がって右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたくような動作をしてジャンプする動きを2回くりかえした後(動き④)、右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたいてジャンプする動きを2回くりかえす(動き⑤)。その後、再び動き④と動き⑤をそれぞれくりかえす。	両手を上に高く上げて右左に体を揺らしながら4回ステップを踏んだ後、右足を大きく右方向に踏み出しながら太鼓をたたいてジャンプする動きを2回くりかえす。	右手を上げて後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み、右手を上げながら2回ジャンプをした後、静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏む→2回ジャンプをし、右手をあげながら静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえす。
			
2		3	
4c'(45-48)	4d(49-56)	4d(49-56)※リピート	*3a'(57-60)
 音価が変化してTp.のみが旋律を奏する。	 2小節ごとに編成が変化しながら旋律を引き継いでいく(Cl., Tp., Tb., Vln., Vla., Vc.→Ob.ソロ)。	※4d部分を参照	
 D-Fis-A音の長三和音とD-G-A音の和音の伴奏型をTb.が奏する。	 2小節ごとに編成と伴奏型が変化する(Cor., Timp., Cb.→Fg.)。Pf.は2小節ごとに拍頭でクラスタを奏する。	※4d部分を参照	 A-E音の五度の音程のリズム(Fg., Tb., Timp., Vc., Cb.)にあわせて(Pf.は拍頭でクラスタ)Cis-E音の長三度の和音とD-Eの調二度の和音が奏される(Cl., Cor., Tp., Vln., Vla.)。

III	IV	
4X"	*1J'	*1J(1X''')
		
		
<p>①②③④⑤⑥の方へ一歩ずつ進んだ後、女鹿と二手に分かれるように右側に進み、次の隊形へ移動する。</p>	<p>太鼓をたたきながら8回ステップを踏む動きを2回くりかえし、両手を上に上げながら体を左右に揺らすように8回ステップを踏む動きを2回くりかえす。</p>	<p>両手を上に上げながら体を左右に揺らすように8回ステップを踏む動きを3回くりかえしながら次の隊形に移動する。</p>
<p>①②③④⑤⑥の方へ一歩ずつ進んだ後、親鹿と二手に分かれるように左側に進み、次の隊形へ移動する。</p>	<p>太鼓をたたきながら8回ステップを踏む動きを2回くりかえし、両手を上に上げながら体を左右に揺らすように8回ステップを踏む動きを2回くりかえす。</p>	<p>両手を上に上げながら体を左右に揺らすように8回ステップを踏む動きを3回くりかえしながら次の隊形に移動する。</p>
<p>一歩ずつ後ずさった後、右手を上げながら次の隊形へ移動する。</p>	<p>③⑤⑥は親鹿、①②④は女鹿の周囲を反時計回りに回りつつ、太鼓をたたきながら8回ステップを踏む動きを2回くりかえし、両手を上に上げながら体を左右に揺らすように8回ステップを踏む動きを2回くりかえす。</p>	<p>親鹿と女鹿の周囲を反時計回りに回りつつ、両手を上に上げながら体を左右に揺らすように8回ステップを踏む動きを3回くりかえしながら次の隊形に移動する。</p>
		
2'	3'	
4c''(61-66)	4d'(67-74)	4e(75-80)
 <p>主音がCis音に変化し、Ob.をFl.が追いかけるように旋律が重なる。</p>	<p>4d部分の2小節がそれぞれくりかえされ(2小節×2回)、4小節ごとに編成を変えて旋律を引き継ぐ(Fl., Ob., Cl., Tp., Vln., Vla.→Ob.ソロ)</p>	 <p>Tamburo Piccoloのソロが上記譜例のリズムを3回くりかえす。</p>
 <p>Per.(Tamburo Piccolo)にあわせてタイでつながれたCis-E音の長三度のロングトーンが奏される(Cl., Cor., Vln., Vla., Vc.)</p>	 <p>旋律の変化にあわせて4小節ごとにE-G-H音の短三和音の連続からD音の連続とCl.の対旋律に変化する。</p>	

<p>Ⅲ'</p>	<p>V</p>
<p>*4D'</p>	<p>*4E</p>
	
<p>① ④ ② ⑤ ③ ⑥</p> <p>● ⊙</p>	<p>① ④ ② ⑤ ③ ⑥</p> <p>● ⊙</p>
<p>右手を上げて後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み、右手を上げながら2回ジャンプをした後、静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み→2回ジャンプをし、右手をあげながら静止して頭を左右に振る。この動きも2回くりかえす。</p>	<p>体を右左に1回ずつ傾けた後、舞台斜め下手方向に向かって右左で1回ずつ太鼓をたたいた後ササラを伏せる→舞台斜め上手方向に向かって右左で1回ずつ太鼓をたたいた後ササラを伏せる(動き⑥)。その後、右手で太鼓を1拍ずつ打ちながら一歩ずつ進み、4歩進む(動き⑦)。動き⑥と⑦をそれぞれもう1回ずつくりかえし、太鼓をたたきながら8回ステップを踏み動きを2回くりかえした後、静止して両手を高く上に上げて下ろし、太鼓を細かく連打する。</p>
<p>右手を上げて後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み、右手を上げながら2回ジャンプをした後、静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み→2回ジャンプをし、右手をあげながら静止して頭を左右に振る。この動きも2回くりかえす。</p>	<p>体を右左に1回ずつ傾けた後、舞台斜め下手方向に向かって右左で1回ずつ太鼓をたたいた後ササラを伏せる→舞台斜め上手方向に向かって右左で1回ずつ太鼓をたたいた後ササラを伏せる(動き⑥)。その後、右手で太鼓を1拍ずつ打ちながら一歩ずつ進み、4歩進む(動き⑦)。動き⑥と⑦をそれぞれもう1回ずつくりかえし、太鼓をたたきながら8回ステップを踏み動きを2回くりかえした後、静止して両手を高く上に上げて下ろし、太鼓を細かく連打する。</p>
<p>右手を上げて後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み、右手を上げながら2回ジャンプをした後、静止して頭を左右に振る。この動きを2回くりかえした後、太鼓をたたきながら後→前→後の順に体の右側を傾けながら3回ステップを踏み→2回ジャンプをし、右手をあげながら静止して頭を左右に振る。この動きも2回くりかえす。</p>	<p>体を右左に1回ずつ傾けた後、舞台斜め下手方向に向かって右左で1回ずつ太鼓をたたいた後ササラを伏せる→舞台斜め上手方向に向かって右左で1回ずつ太鼓をたたいた後ササラを伏せる(動き⑥)。その後、右手で太鼓を1拍ずつ打ちながら一歩ずつ進み、4歩進む(動き⑦)。動き⑥と⑦をそれぞれもう1回ずつくりかえし、太鼓をたたきながら8回ステップを踏み動きを2回くりかえした後、静止して両手を高く上に上げて下ろし、太鼓を細かく連打する。</p>
	
<p>*3a"(81-84)</p>	<p>1'</p>
<p>*3a"(81-84)</p>	<p>4b"(85-98)</p>
<p>和音の構成音と編成は3a'と同じだが、上記譜例のリズムに変化し、各楽器が単音から三度の重音に変化して強弱が<i>ff</i>に増大する。</p>	<p>編成が増大してFl., Ob., Tp.が加わり、強弱は<i>ff</i>に変化する。</p>
 <p>和音の構成音と編成は3a'と同じだが、上記譜例のリズムに変化し、各楽器が単音から三度の重音に変化して強弱が<i>ff</i>に増大する。</p>	 <p>構成音、編成ともにほぼ4bと同じだが、pf.は低音でクラスターを奏し、全体の強弱が<i>ff</i>に変化する。最終小節でそれぞれ2度で重なるH-C-Fis-Gis音の和音(pf.のみクラスター)がすべての楽器によってfffのロングトーンで奏される。</p>

平成 29 年度東京音楽大学大学院音楽研究科  
博士後期課程音楽専攻博士論文

モダンダンス作品《日本の太鼓》「鹿踊り」  
——舞踊と音楽の分析的研究——  
〈付録〉

校訂スコアの作成と校訂報告

※著作権上の理由により一部非公開

D2014-08 音楽学  
河内 春香

## 校訂スコアの作成と校訂報告

本論第 2 章で述べたとおり、《日本の太鼓》「鹿踊り」のスコアは現在消失しているが、全 4 章のパート譜が現存しており、これらを基に独自にスコアを再現することが可能である。ここではパート譜の資料記述を行うとともに、これらの筆跡と使用五線紙に基づいて資料評価を行い、スコアを作成するための主資料を決定する。

### 1. パート譜(各一部ずつ全 29 部<sup>i</sup>)

パート譜は、すべてのパートが揃った状態で現存している(各パート一部ずつ<sup>ii</sup>全 30 部)。使用五線紙は「大映京都撮影所」、「NHK・SC」、「関西交響楽団」と印字された 3 種類の五線紙であり、すべて手書きで写譜されている。

#### Flauto I

[12 段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2 つ折りの紙を 2 枚組み合わせたもの]  
〔p.1〕 Fl, I /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.6〕 III, 〔p.6〕 IV

#### Flauto II

[12 段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2 つ折りの紙を 2 枚組み合わせたもの]  
〔p.1〕 Fl, II ./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.6〕 III, 〔p.6〕 IV

#### Oboe I

[12 段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2 つ折りの紙を 2 枚組み合わせたもの]  
〔p.1〕 Ob. I /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

#### Oboe II

[12 段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2 つ折りの紙を 2 枚組み合わせたもの]  
〔p.1〕 Ob. II ./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.6〕 III, 〔p.7〕 IV

---

<sup>i</sup> 伊福部によるパート譜の確認作業において不足していると書かれた弦楽器のパート譜について、現存するパート譜の状況からは Vln. I および II は一部ずつ書き足されているが、Vla. と Cb. は伊福部のメモで必要とされている数から各一部ずつ足りない。これらは、新たに書き足されたパート譜は残されていない、もしくは確認後も書き足されなかったことが推測される。

<sup>ii</sup> Cor. I /II の楽譜のみ両パートが併記されたパート譜も現存している。

### Clarinetto I

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を3枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 5/Clarinetto I /Preludio, 〔p.2〕 5/Cla. I . in. Si b ./Preludio, 〔p.2〕 I, 〔p.6〕 II, 〔p.8〕 III, 〔p.9〕 IV

### Clarinetto II

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を3枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 6/Clarinetto II /Preludio, 〔p.2〕 6/Clarinetto in Si b /II /Preludio, 〔p.2〕 I, 〔p.6〕 II, 〔p.8〕 III, 〔p.9〕 IV

### Fagotto I

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Fag, I /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.6〕 III, 〔p.6〕 IV

### Fagotto II

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Fagotto, II /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.6〕 III, 〔p.7〕 IV

### Corno I

〔10段五線紙(関西交響楽団)21.8cm×30.7cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 9-A/Horn I /日本の太鼓/Preludio”, 〔p.1〕 第一景, 〔p.4〕 第二景, 〔p.6〕 第三景, 〔p.6〕 第四景

### Corno II

〔10段五線紙(関西交響楽団)21.8cm×30.7cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 9-B/日本の太鼓/Preludio/Horn II ., 〔p.1〕 第一景, 〔p.4〕 第二景, 〔p.5〕 第三景, 〔p.5〕 第四景



### Corno I / II

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Horn. I . II ./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

### Tromba I

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙1枚と1枚の五線紙(半分にカットされたもの)を組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Tvpt I ./in si b /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.5〕 IV

### Tromba II

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Tvpt II ./in si b /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.4〕 III, 〔p.4〕 IV

### Trombone I

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Tvbn II ./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.4〕 III, 〔p.5〕 IV

### Trombone II

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Tvbn. II ./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.4〕 III, 〔p.4〕 IV

### Timpani

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Timp./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.4〕 III, 〔p.5〕 IV

### Percussione

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Percussion./Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.3〕 II, 〔p.4〕 III, 〔p.5〕 IV

### Piano

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判 2つ折りの紙を3枚組み合わせたもの〕

[p.1] Piano./Preludio, [p.1] I, [p.5] II, [p.6] III, [p.7] IV

#### Violini I (I)

[12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの]

[p.1] Violini I / I /Preludio, [p.1] I, [p.4] II, [p.5] III, [p.6] IV

#### Violini I (II)

[12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの]

[p.1] II /Violini II /Preludio, [p.1] I, [p.4] II, [p.5] III, [p.6] IV

#### Violini I (III)

[12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの]

[p.1] Violini I /III/Preludio, [p.1] I, [p.4] II, [p.5] III, [p.6] IV

#### Violini I (IV)

[10段五線紙(NHK・SC)22.8cm×30.8cm縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの]

[p.1] Violini I, [p.2] Violini I /Preludio, [p.3] I, [p.7] II, [p.9] III, [p.10]

IV

#### Violini II (I)

[12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの]

[p.1] Violini II / I /Preludio, [p.1] I, [p.4] II, [p.5] III, [p.6-7] IV

#### Violini II (II)

[12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの]

[p.1] II /Violini II /Preludio, [p.1] I, [p.4] II, [p.5] III, [p.6] IV

#### Violini II (III)

[10段五線紙(NHK・SC)22.8cm×30.8cm縦長判2つ折りの紙を3枚組み合わせたもの]

[p.1] Violini II, [p.2] Violini II /Preludio, [p.3] I, [p.7] II, [p.9] III, [p.10]

## IV

### Viola(I)

〔五線紙(大映京都撮影所)全7枚(縦長判12段)〕

〔p.1〕 Viola/ I /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

### Viola(II)

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Viola II /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

### Violincelli(I)

〔五線紙(大映京都撮影所)全7枚(縦長判12段)〕

〔p.1〕 Celli I /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

### Violincelli(II)

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 Celli II /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

### Contrabassi

〔12段五線紙(大映京都撮影所)22cm×32cm 縦長判2つ折りの紙を2枚組み合わせたもの〕

〔p.1〕 C.Bass. I /Preludio, 〔p.1〕 I, 〔p.4〕 II, 〔p.5〕 III, 〔p.6〕 IV

パート譜に記載されている楽器名について、資料記述においては各パート譜に記載されている書き方に倣ったが、筆跡の比較および校訂報告、作品分析においては以下のとおりに記すこととする。

#### [凡例]

伊福部は管弦楽作品を記譜する際、通常楽器名はイタリア語で記す。パート譜には独自の略称が使用されている例もみられるが、本論文における各楽器名は一般に使用される略称を使用することとした。同じ楽器で異なる音を奏することがある場合には数字はそのま

ま記し(例：Fl. I)、同じ楽器で作品全体をとおして同じ音を奏する場合にはプラト数をカッコ内に記した(例：Vln. I ( I)、Vla.( II))

楽器名	略称	楽器名	略称
Flauto I	Fl. I	Timpani	Timp.
Flauto II	Fl. II	Percussione	Per.
Oboe I	Ob. I	Piano	Pf.
Oboe II	Ob. II	Violini I ( I )	Vln. I ( I )
Clarinetto I	Cl. I	Violini I ( II )	Vln. I ( II )
Clarinetto II	Cl. II	Violini I ( III )	Vln. I ( III )
Fagotto I	Fg. I	Violini I ( IV )	Vln. I ( IV )
Fagotto II	Fg. II	Violini II ( I )	Vln. II ( I )
Corno I	Cor. I	Violini II ( II )	Vln. II ( II )
Corno II	Cor. II	Violini II ( III )	Vln. II ( III )
Corno I・II	Cor. I / II	Viola ( I )	Vla. ( I )
Tromba I	Tp. I	Viola ( II )	Vla. ( II )
Tromba II	Tp. II	Violoncelli ( I )	Vc. ( I )
Trombone I	Tb. I	Violoncelli ( II )	Vc. ( II )
Trombone II	Tb. II	Contrabassi	Cb.

## 2. パート譜の筆跡および使用五線紙

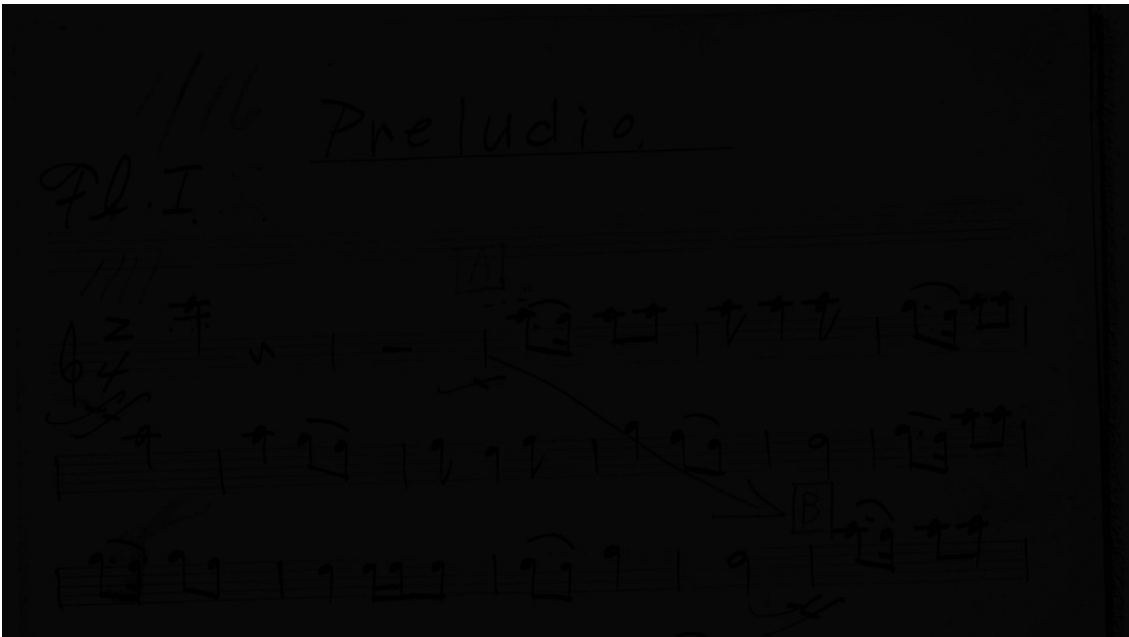
パート譜はすべて手書きで写譜されている。全パート譜の筆跡を確認すると、これらはおそらく4人の人物によって写譜されているものと思われる<sup>(iii)</sup>。写譜した人物をそれぞれA, B, C, Dとすると、それぞれの筆跡には以下のような特徴がみられる。

### (1) Aによる写譜

Aは全パート譜の中で最も多くみられる筆跡である。筆跡の主な特徴としては、アルファベット、音部記号、拍子記号、強弱記号などが大きく力強い線で書かれていることなどが挙げられる(写真 i を参照)。また、写真 i の1小節目にみられるように、アルファベットの S に似た独特の四分休符の書き方や、強弱記号(ここでは ff)が右に大きく傾いて書かれることなども特徴として挙げられる。

<sup>iii</sup> パート譜において伊福部の筆跡は含まれていない。

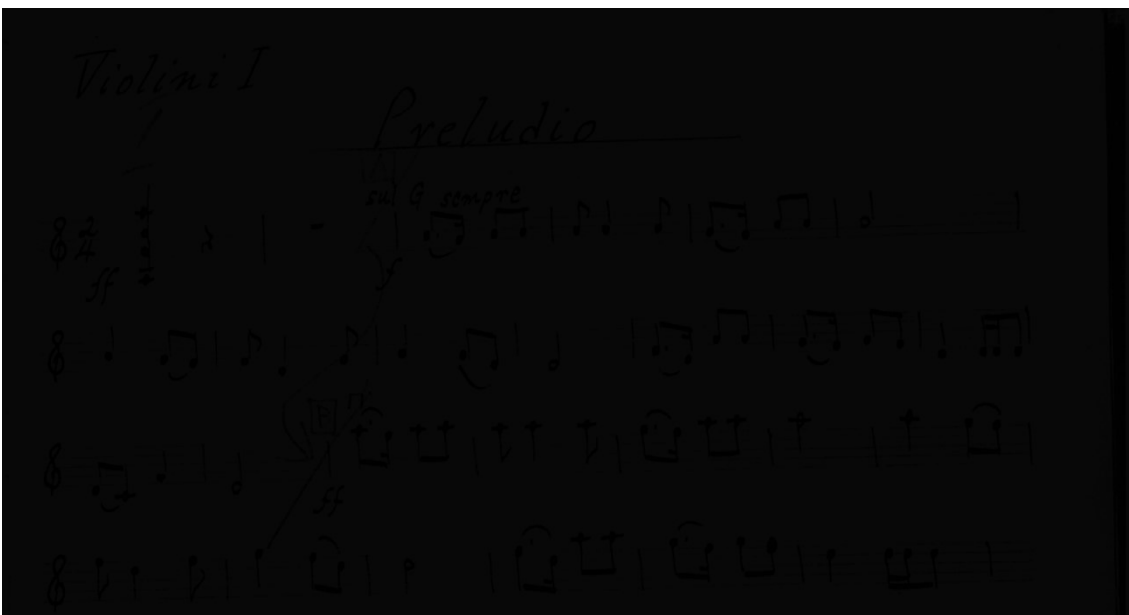
【写真 i: A による写譜(F1. I)】



(2) B による写譜

B は A に次いで多くみられる筆跡である。音部記号、アルファベット、強弱記号はやや丸みを帯びている(写真 ii を参照)。また、全体的に音符の符頭がやや小さめであることから、全体に余白が多い印象を受ける。

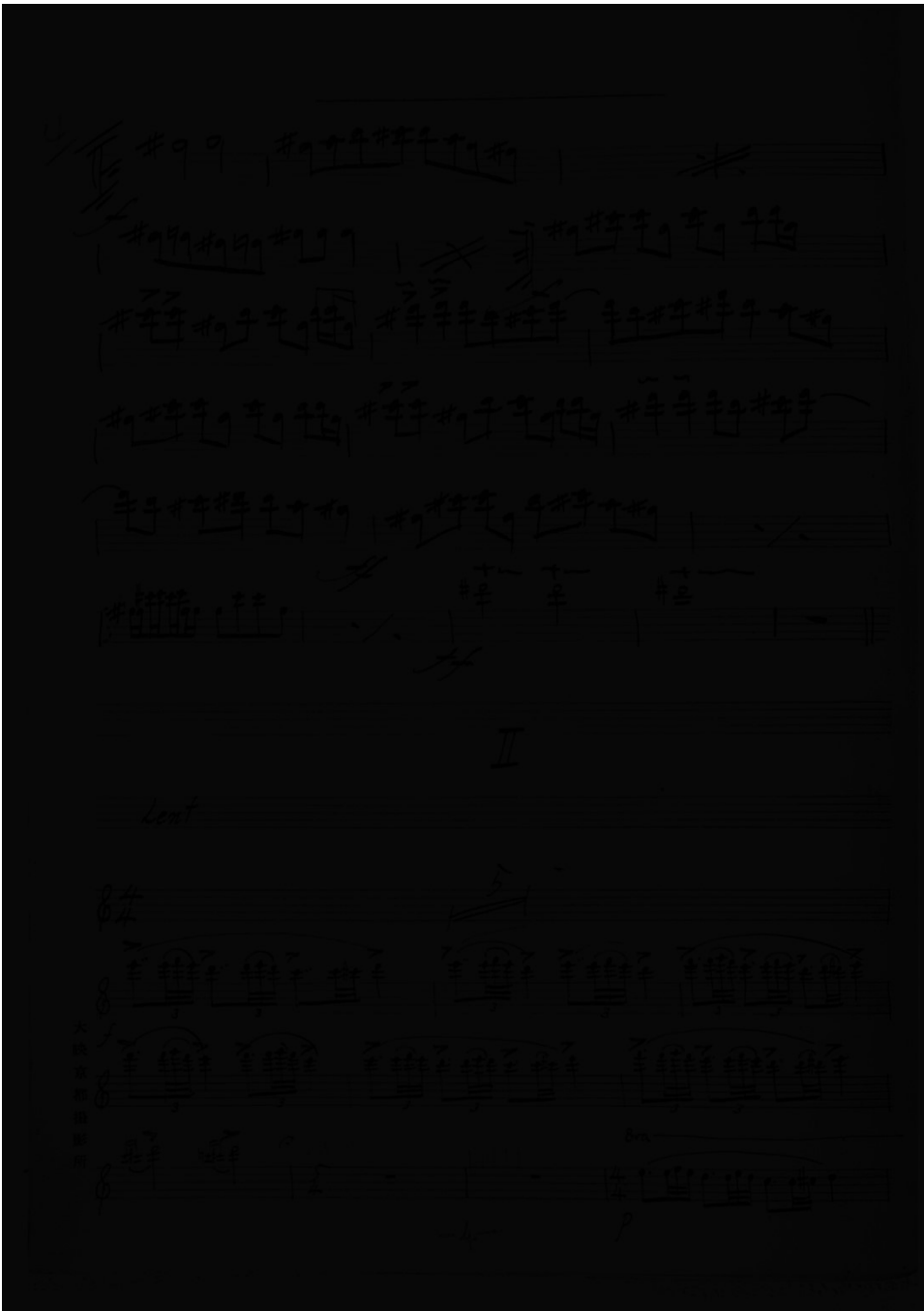
【写真 ii: B による写譜(Vln. I (I))】



### (3) A と B による写譜

また、パート譜の中には同じパートの中で A と B の二人によって書かれているものが多く存在する。前述した筆跡の特徴から、例として写真 iii の Fl. I のパート譜では 4 ページの 1 から 21 小節目までは A、II (第二章)の冒頭から 4 ページの終わりまでは B による筆跡であることが判断される。

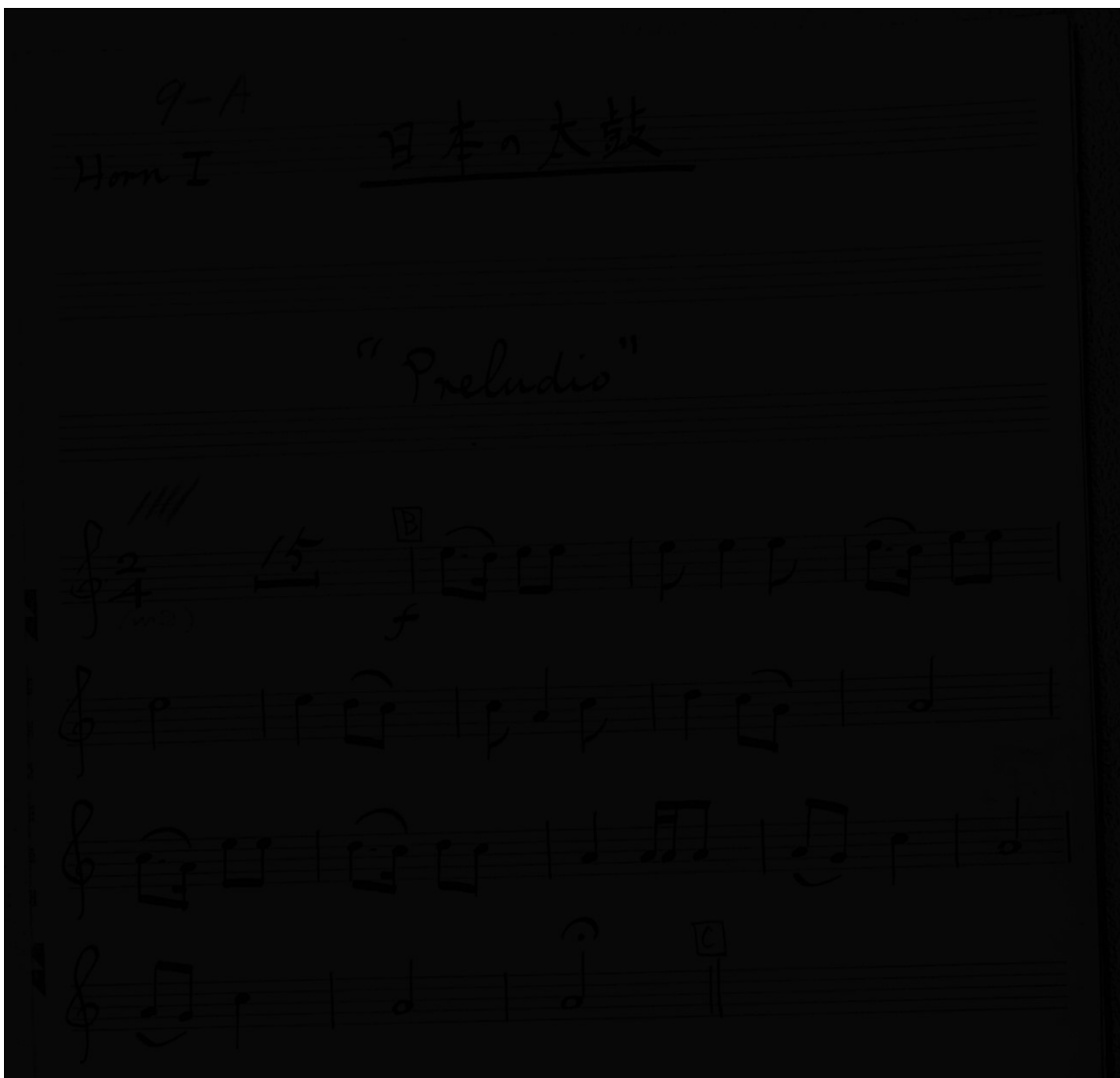
【写真 iii : A と B の筆跡が混在する写譜(Fl. I)】



#### (4) C による写譜

C は Cor. I と Cor. II にのみ見られる筆跡である。主な特徴としては、冒頭に“日本の太鼓”と作品タイトルが記載されていること(他のパート譜には書かれていない)、アルファベットが筆記体で書かれていることなどが挙げられる(写真 iv を参照)。そのほか縦に長く書かれる音部記号や、横に伸びたような形の拍子記号、強弱記号の書き方も他の筆跡とは大きく異なっている。

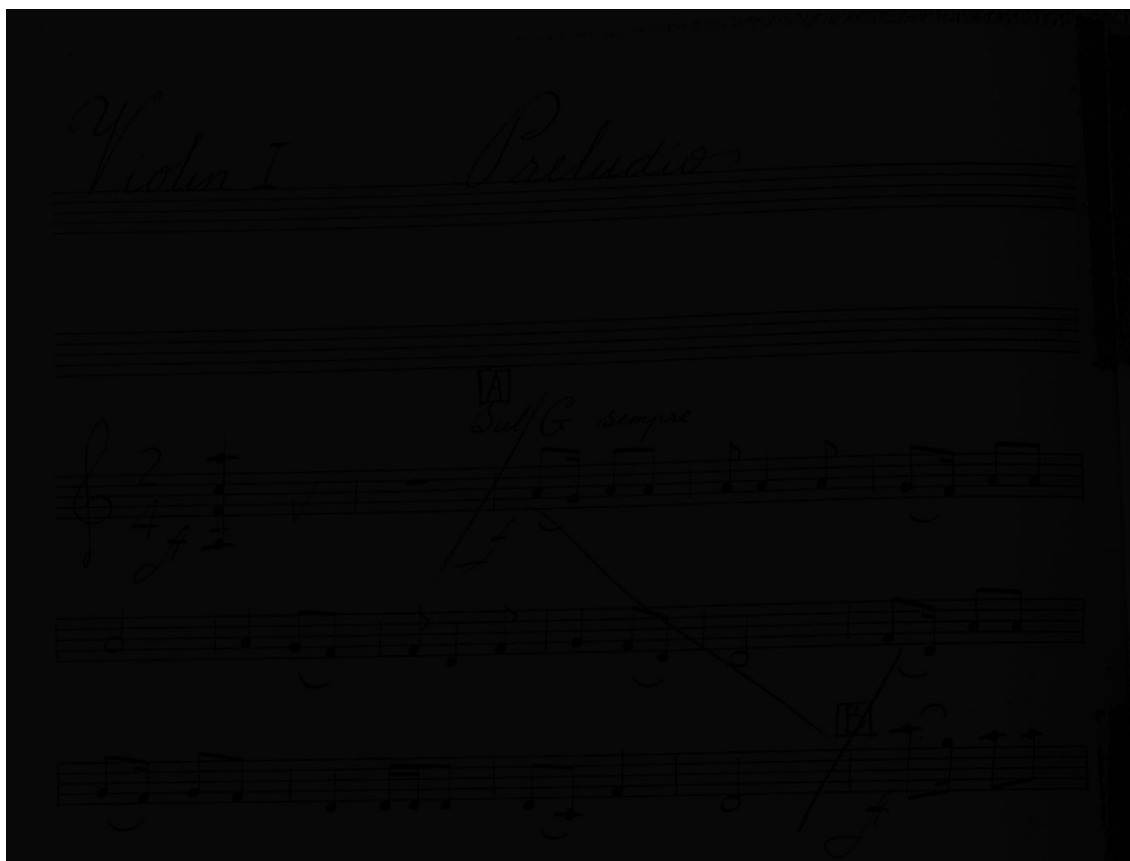
#### 【写真 iv : C による写譜(Cor. I)】



#### (5) D による写譜

D は Vln. I (IV) と Vln. II (III) にのみ見られる筆跡である。D による筆跡の最大の特徴は五線紙上部に書かれている”Violin I ”、”Preludio”および 3 小節目に記載されている”Sul G sempre”などのアルファベット表記にみられる、やや右傾した流れるような筆記体である(写真 v を参照)。強弱記号の書き方もまた非常に特徴的で、写真 v にみられるように、ff の 2 つ目の f は非常に小さく書かれ、f の先端は右方向に輪を描くように返されている。また、全体的に他の筆跡のものよりもペン先がやや細めの筆記具が使用されている印象を受ける。

#### 【写真 v : 筆跡 D(Vln. I (IV))】



これら A,B,C,D による各パート譜の筆跡と使用されている五線紙の種類は以下の表 i のようにまとめられる。表 i から各パート譜とそこでみられる筆跡の全体を概観すると、《日本の太鼓》「鹿踊り」のパート譜全体はおおよそ A および B が中心となって作成されており、C と D による写譜は Cor. I と Cor. II および Vln. I (IV) と Vln. II (III) のみであることがわかる。また、一つのパート譜で二人以上の筆跡が確認できたものについては、各章や練



習番号などの一定の区切りではなく、小節の途中などで筆跡が変化しているものも多いことが明らかとなった。

【表 i：各パート譜における使用五線紙および筆跡一覧】

パート名	使用五線紙	筆跡
Fl. I	大映京都撮影所	p.1 II の冒頭から p.5 の 47 小節目まで B 他は A
Fl. II	大映京都撮影所	p.1 II の冒頭から p.5 の 50 小節目まで B 他は A
Ob. I	大映京都撮影所	A
Ob. II	大映京都撮影所	A
Cl. I	大映京都撮影所	p.10,11 は B 他は A
Cl. II	大映京都撮影所	p.1,11 は B 他は A
Fg. I	大映京都撮影所	P.3 の 5-23 小節目まで B 他は A
Fg. II	大映京都撮影所	Preludio, p.2 の 8-27 小節, p.3 の 1-19 小節, p.6 の 8-17 小節, p.8 の 1-32 小節は B 他は A
Cor I / II	大映京都撮影所	p.7 のみ B 他は A
Tp. I	大映京都撮影所	A
Tp. II	大映京都撮影所	A
Tb. I	大映京都撮影所	A
Tb. II	大映京都撮影所	A
Timp.	大映京都撮影所	p.4 の III 4-43 小節目は B 他は A
Per.	大映京都撮影所	A
Pf.	大映京都撮影所	A
Vln. I ( I )	大映京都撮影所	B
Vln. I ( II )	大映京都撮影所	Preludio(p.1)のみ A 他は B
Vln. I ( III )	大映京都撮影所	B
Vln. II ( I )	大映京都撮影所	B
Vln. II ( II )	大映京都撮影所	タイトル(Preludio), パート名と p.1 の 1-2 小節目まで A 他は B
Vla.( I )	大映京都撮影所	B
Vla.( II )	大映京都撮影所	Preludio(p.1)のみ A 他は B
Vc.( I )	大映京都撮影所	p.1 練習番号 A/C のみ A 他は B
Vc.( II )	大映京都撮影所	B
Cb.	大映京都撮影所	p.1 練習番号 A/C のみ A 他は B
Cor. I	関西交響楽団	C
Cor. II	関西交響楽団	C
Vln. I ( IV )	NHK ・ SC	D
Vln. II ( III )	NHK ・ SC	D

上記のパート譜に使用されている五線紙は、そのほとんどが「大映京都撮影所<sup>(iv)</sup>」と書かれた五線紙が使用されている。ただし、Cor. I と Cor. II は「関西交響楽団」と書かれた五線紙、Vln. I (IV) と Vln. II (III) は「NHK・SC」と書かれた五線紙がそれぞれ使用されており、筆跡も異なっていることから、これらのパート譜は後から新たに書き足されたものであることが推測される。特に Vln. I (IV) と Vln. II (III) のパート譜は、先述した伊福部によるパート譜の確認作業において足りないと言われていた 1 プルト分ずつがちょうどそれに当てはまることから、1959 年に確認作業が行われた後で書き足された可能性が考えられる。Cor. I と Cor. II のパート譜については、どの時点で書き足されたものであるかはパート譜およびパート一覧からのみでは判断できなかった。

### 3. 現存資料に基づくスコアの作成と楽譜校訂

前節におけるパート譜の筆跡および使用五線紙の検証から、「大映京都撮影所」の五線紙を使用し A と B によって写譜されたパート譜が、現存するパート譜の中で最も初演時の状態に近いものであると判断できる。よって本論文ではこれらのパート譜を主資料、それ以外の五線紙が使用されたパート譜を副資料とし<sup>v</sup>、ここから新たに《日本の太鼓》「鹿踊り」のスコアを再現した。

また、パート譜とあわせて参照可能であるのが、本論第 2 章で記述した 1950 年代の地方公演および 2011 年と 2014 年の再演で使用された音源①である。音源①は録音された年代が《日本の太鼓》「鹿踊り」の初演と同じ 1950 年代であることや、江口も上演にあたってこの音源を使用していた、つまり音楽の流れと舞踊の流れが合致していることから、舞踊と音楽の進行という点においては、これを最も信頼できる資料と位置付ける<sup>vi</sup>。ここでパート譜および音源①に基づいてスコアを作成することによってはじめて《日本の太鼓》「鹿踊り」の音楽分析を行うことが可能となる。また、これらの主資料に見られる音の違い、デュナーミク、アーティキュレーションの齟齬などについては、校訂報告として後述する。第 3 章では映像資料④と作成したスコアを基に本論文の目的である舞踊と音楽の両面からの作品分析を行うこととする。

---

iv 作曲者自身がパート譜の五線紙を提供したのであれば、大映京都撮影所の五線紙は同時期に作曲された映画音楽に使用した五線紙を使用している可能性が高い。

v 校訂するにあたって主資料のみでは判断できない場合に限ってこれらの楽譜も参照する。

vi 音源①とパート譜を比較すると、フレーズの繰り返しにいくつかの相違点がみられる。このような場合、本論文では音源①の音楽の流れを優先し、これにしたがってスコアの作成および校訂を行うこととする。

#### 4. 《日本の太鼓》「鹿踊り」校訂報告

### **Preludio**<sup>(vii)</sup>—前奏

#### 1. 1 小節: Ob., Vln. I, Vln. II, Vla., Vc.

強弱記号が付されていないが、他のパートにならって *ff* とした。

#### 2. 18 小節: Vln. II (III)

18 小節目の 2 拍目頭の音符が消えているが、Vln. II (I) および Vln. II (II) には A 音が記載されているため、A 音で統一した。

#### 3. 21-25 小節: Ob. II

Ob. I に記載されている 21 から 25 小節目が明らかに欠如している。奏者によるものと思われる楽譜の書き込みや、その直前までユニゾンで演奏されていることから、この部分も Ob. I とユニゾンで奏することが適当である。

## 第一章「八ツの鹿の踊り」

#### 1. 7 小節: Vc.

強弱記号が付されていないが、他のパートにならって *mf* とした。

#### 2. 9 小節: Cl. II

*decres.* が付されていないが、Cl. I には付されているため、こちらに統一した。

#### 3. 9 小節: Fg. I, Vln. I (I), I (II), I (III), I (IV), Vln. II (II), Vc. I, Vc. II

*decresc.* (松葉) が付されていないが、Fg. II, Vln. II (I) および他の弦楽器パートには付されているためこちらに統一した。

---

(vii) 前奏曲のタイトル表記はほとんどのパート譜で **Preludio** と記載されている。

4. 17 小節: Vln. II (II)

Vln. II (I)は As 音、Vln. II (II)は A 音となっているが、A 音は明らかに b が欠如しているため、統一して As 音とした。

5. 21,22 小節: Per.(G.C.)

音価が足りないため、同音型の 20 小節に倣い、四分休符を補記した。

6. 22 小節: Vln. II (II)

1 拍目はアクセントが付されていないが、Vln. II (I)および Vln. I に付されているためこちらに統一した。

7. 22 小節: Vla.(I),Vla.(II)

4 拍目の音が F-Es 音となっているが、同音型を奏する他パート(Cl.)に統一して Ges-F 音に修正した。

8. 24 小節: Per.

使用楽器の指示はないが、音源から Tanbulo Piccolo が使用されていることが確認できたため、T.P.を記載した。

9. 28 小節: Cl. I

*f*が付されていないが、Cl. II および他パート(Fl.)に倣って補記した。

10. 30 小節: Vla. I

4 拍目の音が G となっているが、Vla.(II)および他の弦楽器パートに倣って F に統一した。

11. 31 小節: Cl. II

四分音符すべてにテヌートが付されているが、Cl. I および同じ旋律を奏する他パート(Fl. および Cor.)には記載されていないため、こちらに統一した。

12. 33-48 小節: 全パート

Fis 音はアクセントが付されているものとそうでないものがあるが、統一してすべてアクセントを付すこととした。

13. 39 小節: Fg. I

3 拍目頭はアクセントではなくスタッカートが付されているが、Fg. II のアクセントおよび同音型の 35 小節目に倣い、統一してアクセントを付した。

14. 39 小節: Cor. I ,Tb. I

3、4 拍目にスタッカートが付されていないが、直前の同音型の部分(35 小節)に倣ってスタッカートを付した。

15. 40 小節: Cor. I ,Tb. I

1、2 拍目スタッカートが付されていないが、直前の同音型の部分(36 小節)に倣ってスタッカートを付した。

16. 40 小節: Fg. I

1、2 拍目頭にはアクセントもスタッカートも付されていないが、Fg. II および前後の同音型はすべて 1 拍目の拍頭にアクセントと以降にスタッカートが付されていることから、同様にアクセントとスタッカートを付した。

17. 41 小節: Fl. I ,Tp. I

付点リズムは他の同じ旋律を奏している他パート(Cl.および Ob.)に倣って、副付点とした。

18. 43 小節: Cor. I

3、4 拍目にスタッカートが付されていないが、同音型の部分(35 小節)に倣ってスタッカートを付した。

19. 43 小節: Vln. I (III)

3 拍目裏と 4 拍目にスタッカートが付されているが、Vln. I (I)および Vln. I (II)には付さ

れていないため、削除した。

20. 44 小節: Cor. I ,Tb. I

スタッカートが付されていないが、直前の同音型の部分(36 小節)に倣ってスタッカートを付した。

21. 47 小節: Fg. I

*f*が付されていないが、Fg. II および前後の同じ音型(43 小節)の強弱記号のつけ方に倣って *f* を付した。

22. 47 小節: Cor. I ,Tb. I

3、4 拍目にスタッカートが付されていないが、直前の同音型の部分(43 小節)に倣ってスタッカートを補記した。

23. 47 小節: Tb. I ,Tb. II

他パート(Cor.)および前出の同音型の部分(43 小節)の強弱に従って *f* に統一した。

24. 48 小節: Cor. I ,Tb. I

1、2 拍目にスタッカートが付されていないが、直前の同音型の部分(40 小節)に倣ってスタッカートを補記した。

25. 49 小節: Vla.( I )

強弱記号が付されておらず、Vla.( II )には *ff* が付されているが、他の同音型の弦楽器のパート(Vln. I および Vln. II )に倣って *mf* とした。

26. 58 小節: Fl. I

4 拍目は、1 小節内の音価、同じ旋律が使用されている部分(11 小節)を考慮しても 3 連符の表記が明らかに欠如しているため、3 連符とした。

27. 68 小節: Cor. I / II では音 F が全音符で記されているが、Cor. I および II の楽譜では前の小節の Es-G 音の和音がもう一度繰り返されている。ここは他のパートとの関係から、もう一小節同音型がなくては小節数が足りないため、Cor. I および II の楽譜に倣い、Es-G 音の和音を補記した。

28. 69 小節: Ob. I

1 拍目の二分音符にアクセントが付されていないが、Ob. II に倣い、1 拍目にもアクセントを付した。

29. 73 小節: Fg. I

1 拍目および 3 拍目の拍頭にアクセントが付されていないが、同音型のお他パート (Cor. および Tb.) に倣い、アクセントを付した。

30. 73 小節: Fg. II

3 拍目拍頭にアクセント、3 拍目裏及び 4 拍目にスタッカートがそれぞれ付されていないが、同小節の 1、2 拍目に倣い、アクセントとスタッカートを付した。

31. 73 小節: Vln. II

特に指示が書かれてはいないが、Vln. I にならって sul G とした。

32. 77 小節: Cl. II

*ff* が付されていないが、Cl. I および同じ音型のお他パート (Tp. I および II) に倣って 3 拍目にも *ff* を記載した。

33. 77 小節: Fg. I

1 拍目裏、2 拍目、3 拍目裏、4 拍目にスタッカートが付されていないが、Fg. II および前出の同音型 (73 小節数) に統一してスタッカートを付した。

34. 79 小節: Fg. I

強弱記号が付されていないが、Fg. II に *f* と書かれているため、統一して *f* を付した。

35. 78 小節: Tb. II

1、2 拍目の裏拍にスタッカートが付されていないが、Tb. I と統一してスタッカートを付した。

36. 78 小節: Tb. I

3 拍目にスタッカートが付されていないが、Tb. II と統一してスタッカートを付した。

37. 81 小節: Cl. II

強弱記号が付されていないが、Cl. I および同音型の他パート(木管・金管・ピアノ・弦)に倣って *ff* を記載した。

38. 81 小節: Tb. I

強弱記号が付されていないが、Tb. II および同音型の他パート(Cor. および Tp.) に倣って *ff* を付した。

39. 85 小節: Fg. I

強弱記号が付されていないが、Fg. II および同音型の他パート(Cor., Vc, Cb,) に倣って *f* を付した。

40. 89 小節: Fg. II

強弱記号が付されていないが、Fg. I および同音型の他パート(Cor.) に倣って *ff* を付した。

41. 89 小節: Vla.( I ), Vla.( II )

強弱記号はそれぞれ *f* と *ff* となっているが、伴奏音型であることと他パート(Vc. および Cb.) を考慮し、統一して *f* とした。

42. 92 小節: Vla.( II )

2 拍目の D 音は明らかに *b* が欠如しているため、Vla.( I ) にあわせて Des 音に統一した。



43. 92 小節: Vln. I

1 拍目裏拍の A 音は Vln. I (II)のみ明らかに  $\flat$  が欠如しているため、Vln. I (I)と Vln. I (III)にあわせて As 音に統一した。

44. 93 小節: Tb. I

強弱記号が付されていないが、Tb. II と統一して *mf* を付した。

45. 97 小節: Fg. II

2 拍目と 3 拍目の間に小説線が記載されているが、明らかに間違いであり、奏者によるものと思われる修正の後もみられるため、4 拍で 1 小節とした。

46. 98 小節: Cor. II

2 拍目にアクセントが付されていないが、前出の同音型(97 小節)に倣ってアクセントを付した。

47. 99-100 小節: Pf.

上段はスタッカートのみでアクセントが付されていないが、前出の同音型(93 小節以降)に倣ってアクセントを補記した。

48. 101 小節: Vln. II

いずれの楽譜にも強弱記号が付されていないが、Vln. I に倣って *f* とした。

49. 103 小節: Fg. II

強弱記号は付されていないが、直後の同音型(101 小節)および Fg. I に *f* が付されているため、統一して *f* を付した。

50. 106 小節: Vln. I

3 拍目は、Vln.(II)のみスラーが付されていなかったが、Vln.(I)および Vln.(III)には付されているため統一してスラーを付した。

51. 107 小節: Fg. I

1 拍目と 4 拍目にアクセントが付されているが、前出の同音型(103 小節)および直後に現れる同音型(108 小節)でもアクセントは付されていないため、削除した。

52. 108 小節: Cl. I

1 拍目にスラーが付されているが、同音型の 92 小節の 1 拍目にはスラーがないため、これに倣ってスラーを削除した。

53. 108 小節: Vla.(II)

3 拍目はスラーが付されていないが、Vla.(I)には付されているため、統一してスラーを付した。

54. 110 小節: Vln. II (II)

3 拍目にスラーが付されていないが、Vln. II (I)および Vln. I に統一してスラーを付した。

55. 113-116 小節: Tb. I

3 拍目にはアクセントが付されていないが、Tb. II および同音型の他パート(Fg.)に統一して、3 拍目にもアクセントを付した。

56. 117 小節: Vln. I

の 3、4 拍目は G 音となっているが、他パートと比較しても明らかに#が欠如しているため Gis 音に修正した(奏者によるものと思われる修正あり)。

57. 119 小節: Tb. I

1 拍目にはアクセントが付されているが、同音型の他パート(Fg.および Cor.)および Tb. II にはアクセントが付されていないため、こちらに統一した。

58: 119 小節: Vln. II (II)

強弱記号が付されていないが、Vln. II (I)および Vln. I と統一して ff とした。

59. 121 小節: Tb. I , Tp. II

Tb. I の 1、2 拍目にはアクセント、Tp. II にはモルデントがそれぞれ付されているが、同じ旋律を奏する他パート(Fl., Ob., Cl.)に倣い、両方を付した。

60. 123-126 小節: 全パート

繰り返しの指示があるが音源では繰り返されていないため、繰り返し記号を再除した。

61. 125 小節: Tp. I

1、2 拍目にはモルデントが付されていないが、Tp. II および他パート(Fl., Ob., Cl.)に倣い、モルデントを付した。

## 第二章「女鹿かくしの踊り」

1. 1-5,10-12 小節: Ob.

スラーおよびアクセントが統一されていないが、同音型をユニゾンで奏する Fl. のスラーおよびアクセントに倣った。

2. 4 小節: Fl. II

スラーが付されていないが、Fl. I および前後の同音型(2 小節)に統一してスラーを付した。

3. 6-11 小節: Fl. II

スラーのつけ方が統一されていないため、Fl. I のスラーのつけ方に統一した。

4. 6-7 小節: Fl. I

副付点となっているが、Fl. II および後の同音型(9-10 小節)に統一して付点とした。

5. 15-16 小節: Fl. I , Fl. II

スラーとアクセントのつけ方が統一されていないが、前出の同音型(10-11 小節)のものと統一した。

6. 16 小節: Fl. II

副付点になっているが、Fl. I のリズムおよび前出の同音型(15 小節)のリズムと統一して付点とした。

7. 17-18 小節: Fg. I ,Fg. II

4 拍目頭の音は明らかに $\sharp$ が欠如しているため補記した。

8. 22 小節: Vla. II

Vla. I および他の弦パートに合わせて *Pizz.* の指示を加えた。

9. 23 小節: Fl. I ,Fl. II

スラーのつけ方が統一されていないが、前出の同音型(9 小節)と統一し、スラーを付した。

10. 27 小節: Vln. II

強弱記号が付されていないが、Vln. I に倣って *p* とした。

11. 27 小節: Vc. II

Vc. I および他の弦パートに倣って *arco* の指示を加えた。

12. 27-28 小節: Vln. I

付点になっているが、前出の同音型(13-14 小節)と統一して副付点とした。

13. 33-36 小節: Vla.(II)

他パートおよび音源では同じ部分が 2 回繰り返されているため、繰り返し記号を補記した(編成に加わっていないパートには繰り返しの指示は記載されていない)。

14. 33-36 小節: Cl. I

アクセントが付されていないが、Cl. II に統一してアクセントを記した。

15. 33 小節: Cor... I・II, Tp. I, Tp. II

いずれの部分譜も強弱記号が付されていないが、同音型他部分(Vln. I および II)に倣って *f* とした。

16. 34,36 小節: Tb. II

明らかに # が欠如しているため G 音から Gis 音に修正した(奏者によるものと思われる修正あり)。

17. 35 小節: Vla.( I ),Vla( II )

4 拍目はいずれも G 音となっているが、明らかに # が欠如しており、他の弦楽器部分に倣って Gis 音とした。

18. 36 小節: Vln. II

3 拍目は Vln. II ( I )には何も付されていないが、Vln. II ( II )には *ffz* が付されているので、こちらに統一した。

19. 38 小節: Vln. I ( III )

2 拍目頭は Vln. I ( I ) および Vln.( II ) に倣って His 音から Cis 音とした。

20. 39-40 小節: Tp. II

アクセントは Tp. I に倣った。

21. 47-52 小節: Cor. I ,Cor. II ,Tb. I ,Tb. II ,Per.

繰り返しの指示があるが、他部分および音源にあわせて省略した。

22. 51 小節: Vla.( I )

2 拍目裏は C 音となっているが、明らかに # が欠如しており、Vla.( II ) および他の弦部分に倣って Cis 音とした(奏者によるものと思われる修正あり)。

23. 53 小節: Cor. I , Cor. II

いずれの部分譜も強弱記号が付されていないが、他パート(Tp., Tb.)に倣って *ff* とした。

24. 53 小節: Per.(G.C.)

休符が欠如しているため、補記した。

25. 57 小節: Ob. II

アクセントが付されていないが、Ob. I および他の木管楽器、管楽器に統一してアクセントを付した。

26. 57 小節: Ob. II

G 音は明らかに#が欠如しており、奏者によるものと思われる書き込みによっても#が補記されているため、G 音→Gis 音とした。

27. 57 小節: Cl. II

アクセントが付されていないが、Cl. I に倣ってアクセントを記した。

28. 58 小節: Ob. II

G 音は明らかに#が欠如しており、音楽的にもこちらが正しいため、G 音→Gis 音とした。

29. 59 小節: Ob. II

強弱記号が付されていないが、Ob. I およびに倣って *mf* を補記した。

30. 58 小節: Cb.

フェルマータが付されていないが、他の弦パートに倣って補記した。

31. 61 小節: Cl. II

1、2 拍目にはスラーが付されていないが、Cl. I に倣ってスラーを記した。

32. 68 小節: Fl. I

強弱記号が付されていないが、II には *mf* が記載されているため補記した。

### 第三章「二ツの鹿の踊り」

#### 1. 11 小節: Timp.

強弱は mp と記載されているが、奏者によって消されている。

#### 2. 20 小節: Cl. I

A 音は明らかに As 音であるため#を補記した(奏者自身による書き込みあり)。

#### 3. 22 小節: Vla.

Vla.(I)には unis.の指示はないが、Vla.(II)および他パート(Cb.)に倣って unis.を付した。

#### 4. 26-27 小節: Ob.

Ob. II にのみスラーが記載されているが、他の部分のフレーズと統一させて、Ob. II に倣った。

#### 5. 27 小節: Vln. I

Vln. I (III)のみ 2 拍目にスラーが付されているが、Vln. I (I),Vln. I (II)および Vln. II に倣ってスラーは付さなかった。

#### 6. 29 小節: Vln. II (II)

3 拍目にはスラーが付されていないが、Vln. II (I)および前出の同音型に倣ってスラーとした。

#### 7. 29 小節: Ob. II

2、3 拍目のスラーは、Ob. I および前後の同音型(25 小節)に倣ってそれぞれにスラーを付した。

#### 8. 30 小節: Vln. II (I),Vln. II (II)

いずれも 1 拍目から 2 拍目の四分音符にかけてスラーが付されていないが、後の部分(62 小節)に倣ってスラーを補記した。

9. 61 小節: Ob. II

2、3 拍目のスラーは、Ob. I および前後の同音型(25 小節)に倣ってそれぞれにスラーを付した。

#### 第四章「八ツの鹿の踊り」

1. 1-12 小節: Fl., Ob.

強弱記号が付されていないが、他の管楽器パートに倣って *ffz* とした。

2. 1-12 小節: Fg. I

強弱の指示は Fg. II に倣って 2 小節単位とした。

3. 1-12 小節: Vln. II, Vla

強弱記号が付されていないが、他の弦楽器パートに倣って *f* とした。

4. 1-12 小節: Vc.( I )

強弱記号が付されていないが、Vc.( II )に統一して *f* とした。

5. 3,5,7,9,11 小節: Tb. I ,Tb. II

いずれも 1 小節目以降は繰り返し記号が記載されているが、他パート(その他の全パート)に倣って 2 小節単位の繰り返しとした。

6. 7 小節: Fg. I

1 小節から繰り返し記号が続いているが、Fg. II および他パート(Timp.)に統一して強弱記号を削除した。

7. 18 小節: Vln. II ( II )

1、2 拍目にスラーが付されていないが、Vln. II ( I )に倣ってスラーを付した(奏者によるものと思われる書き込みあり)。



8. 22 小節: Vla.( I ), Vla.( II )

1、2 拍目にはいずれもスラーが付されていないが、同音型の Vln. I および Vln. II に倣ってスラーを付した。

9. 30 小節: Vln. II ( I )

強弱記号が付されていないが、Vln. II ( II )および Vln. I に統一して *f* を付した。

10. 32 小節: Vln. I ( III )

3、4 拍目はスラーが付されていないが、Vln. I ( I )および Vln. I ( II )にはスラーが付されているため、こちらに統一した(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

11. 32 小節: Vla.( I ), Vla.( II )

いずれもスラーが付されていないが、同音型の Vln. I および Vln. II に倣ってスラーを付した。

12. 35 小節: Vln. I ( II )

1、2 拍目のみスラーが付されていないが、Vln. I ( I )、Vln. I ( III )に倣ってこちらに統一した(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

13. 36 小節: Ob. II

1、2 拍目はスラーが付されていないが、Ob. I および同音型を奏する他パート(Fl.)に統一してスラーを付した。

14. 36 小節: Vln. I ( II ), Vln. I ( III )

1、2 拍目にスラーが付されているが、Vln. I ( I )では付されておらず、奏者によるものと思われる削除の跡がみられることから、スラーを削除した。

15. 37 小節: Vla.( II )

3、4 拍目にスラーが付されていないが、Vla. ( I )に統一した。

16. 38 小節: Vla.(Ⅱ)

1、2 拍目にスラーが付されていないが、Vla. (Ⅰ)に統一した。

17. 39 小節: Vla.(Ⅱ)

3、4 拍目にスラーが付されていないが、Vla. (Ⅰ)に統一した。

18. 40 小節: Vla.(Ⅰ), Vla.(Ⅱ)

1、2 拍目はいずれもスラーが付されていないが、同音型の弦パートに倣ってスラーを付した。

19. 41 小節: Vla.(Ⅰ)

3、4 拍目にスラーが付されていないが、Vla.(Ⅱ)に統一した。

20. 44 小節: Vln. I

1、2 拍目はいずれの楽譜もスラーが付されていないが、他パート(Fl.,Ob.,Cl.)に倣ってスラーを付した。

21. 44 小節: Vla.(Ⅰ)

1、2 拍目にスラーが付されていないが、Vla.(Ⅱ)に統一した。

22. 45 小節: Tp. I

ソロには *con. sordino* の指示があるが、奏者の書き込みによって削除した。Solo の指示はⅠにはなくⅡ(参照メモ)のみに付されているが、Ⅰに Solo と記載した。

23. 46 小節: Tb.Ⅱ

3 拍目頭はテヌートが付されているように見えるが、Tb.Ⅰおよび同小節 1、2 拍目の同音型に倣ってスタッカートとした。

24. 48 小節: Tp. I

3、4 拍目の 2 分音符にタイが付されているが、次の小節の音が異なるため、削除した。

25. 48 小節: Tb.

Tb. I にはすべての音符にテヌート、Tb. II には 1 拍目頭にアクセントと 1 拍目裏および 2 拍目にスタッカートがそれぞれ付されているが、奏者のものと思われる書き込みではすべての音符にアクセントが付されているため、これに倣った。

26. 49 小節: Tp. I ,Tp. II

いずれも *senza sordino* の指示があるが、Tp I の 45 小節の *con sordino* を削除し、Tp. II には 49 小節以前に *con sordino* の指示はないため、これを削除した。

27. 49 小節: Tp.

Tp I には *ffz*、Tp II には *fff* の指示がそれぞれあるが、他パートを考慮した場合の指示として *fff* の方が適しているため、*fff* に統一した。

28. 49 小節: Vln. II

特に指示が書かれてはいないが、Vln. I にならって *sul G* とした。

29. 49 小節: Vc.(II)

4 拍目は 16 分音符にスラーが付されていないが、Vc.(I) に倣ってスラーを付した。

30. 50 小節: Tb. I

4 拍目の 16 分音符にスラーが付されていないが、他パート(Cl.,Fg.,Tp.)に倣ってスラーを付した。

31. 50 小節: Vln. I (II)

4 拍目の 16 分音符にスラーが付されていないが、Vln. Vln. I (I)、Vln. I (III)に倣ってスラーを付した(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

32. 50 小節: Vc.(I)

4 拍目は 16 分音符にスラーが付されていないが、Vc.(I) に倣ってスラーを付した。

33. 53 小節: Fg.

Fg.Ⅱには強弱記号が付されていないが、Ⅰには *mp* が付されているため、こちらに統一した。

34. 53 小節: Tp. I ,Tp. Ⅱ

いずれも 4 拍目の裏拍は His 音が書かれているが、同音型を奏する他パート(Cl.,Fg., Tb.)から判断すると明らかに間違いであり、これらに統一して Cis 音とした。

35. 54 小節: Vc.(Ⅰ),Vc.(Ⅱ)

4 拍目はいずれも G 音が記譜されているが、他の弦パートに倣って Fis に修正した(奏者によるものと思われる修正あり)。

36. 56 小節: Ob. I

3 拍目は G 音が記譜されているが、明らかに#が欠如しているため、直前の他パート(Cl.,Fgほか)に統一して Gis 音とした(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

37. 57-59 小節: Vc.(Ⅱ)

1 拍目および 4、6 拍目の表拍の音にはアクセントが付されていないが、Vc.(Ⅰ)および同音型の他パート(Timp.)に倣ってアクセントを付した。

38. 58 小節: Cl. Ⅱ

4 拍目には *decre.*(松葉)の指示がないが、Cl. I および他パート(Cor.)に統一して *decre.*(松葉)を付した。

39. 67-71 小節: 全パート

繰り返しの指示があるが、音源では繰り返されていないため、削除した(奏者による書き込みではすべてのパートで繰り返しが削除されている)。

40. 71 小節: Ob. I

3 拍目は G 音が記譜されているが、明らかに#が欠如しているため、直前の他パート(Cl.,Fg

ほか)に統一して *Gis* 音とした(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

41. 73 小節: Ob. I

3 拍目は *G* 音が記譜されているが、明らかに  $\sharp$  が欠如しているため、同音型の他パート (Fl.) に統一して *Gis* 音とした(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

42. 61 小節: Vc.(II)

強弱記号が付されていないが、Vc.(I) に統一して *mf* とした。

43. 61-63 小節: Vln. II (II)

62-63 小節にかけて *Cis* 音のタイになっているが、Vln. II (I) および Vln. I に倣って 71-62 小節にタイを付した。

44. 67 小節: Ob.

Ob. I は *f*、Ob. II は *ff* の指示があるが、他の木管楽器、金管楽器に倣って *ff* とした。

45. 67 小節: Vln. I (III)

4 拍目の 16 分音符にスラーが付されているが、Vln. I (I)、Vln. I (II) および同音型の 68 小節の 4 拍目に倣って削除した。

46. 67 小節: Fg. II

強弱記号が付されていないが、Fg. I には *ff* が付されているため、こちらに統一した。

47. 75-78 小節: Per.(T.P.)

75 小節と同じ音型を 4 回繰り返す指示が書かれているが、音源および奏者によるものと思われる書き込みから、75-76 小節の 2 小節単位で 2 回繰り返した。

48. 81 小節: Vln.

1 拍目は Vln. I (II) のみアクセントが付されているが、Vln. I (I)、Vln. I (III) には付されていないため、こちらに統一した。

49. 81 小節以降: Vc.( I ),Vc.( II ),Cb.

いずれも arco で奏するのが適当と思われるため、arco の指示を記載した。

50. 88 小節: Vln. I

3、4 拍目はすべてスラーが付されているが、他パート(Fl.,Ob.,Cl.,Cor.,Tp.)に倣って削除した(奏者によるものと思われる書き込みあり)。

平成 29 年度東京音楽大学大学院音楽研究科  
博士後期課程音楽専攻博士論文

モダンダンス作品《日本の太鼓》「鹿踊り」  
——舞踊と音楽の分析的研究——

〈付録〉

校訂スコア

※著作権上の理由により非公開

D2014-08 音楽学  
河内 春香